

水と土の芸術祭 2009

総括報告書

資料編

## 目 次

1. 実行委員会アンケート	1
2. 来場者アンケート	12
3. サポーターアンケート	28
4. 地域・サポーター等への聞き取り調査	42
5. 自治協議会の意見等	49

## 1. 実行委員会アンケート（有効回答数51）

1 水と土の芸術祭は、成功だったと思いますか。

成功と思う	12名	23.5%
どちらかといえば成功と思う	29名	56.9%
どちらかといえば成功と思わない	8名	15.7%
成功と思わない	2名	3.9%

<成功と思う>

- ・事業規模に比べ準備期間が短かった割には、おおよそ当初の予定通り各企画が実施されたこと。
- ・地域アピールはキッカケが必要と思う。水と土の芸術祭は、アート、地域参加団体、それをサポートするサポーター、住民等が一体となって協同という技を身に付けた。
- ・政令市の全住民が一体となってこそできる事業だったことは「水と土」に対する思い・感心をもってもらえたと思う。
- ・市民が知らなかった新潟の宝に光を当てた。そして市民に知ってもらった事。
- ・新潟を存分にアピールできていたと思うから。
- ・新潟市の文化財に関心を寄せるよいイベントであったと思います。
- ・イベント開催期間の長さもあり、多くの人が、かかわりあった。
- ・合併地域の人とのつながりが持てたから。
- ・経済状況が厳しい中、トキめき国体やDC等、また大観光交流年との連携により、誘客を図ることが出来た。
- ・経済効果 etc. については何とも言えぬが、少なくとも私の身のまわりの方たちは芸術祭を楽しんでいた。楽しむことができた。
- ・新潟の宝の再発見につながった
- ・やすらぎ堤の作品を中心に連日報道されるなど広く一般の人に周知・浸透され、さらに新潟市のイメージアップにつながったと考えられるため。

<どちらかといえば成功と思う>

- ・(1) 松浜商店街などは一定の来客増の効果があつた。
- ・(2) 「十二湯」の知名度が上がり保存活用の気運醸成に効果があつた（地元の認知度や湯の価値認識度があがつた）
- ・(3) 運営上の問題点（成功と思わないこと）
  - ①準備不足
  - ②区の担当と交流推進課員との役割分担不明確
  - ③ボランティアには交通費・食事代等全て自己負担を強いているが、人材センターや臨

時雇用職員には報酬（給与）があるため、同一業務への従事に不満を持つ人がいた。  
したがって協力を依頼することが極めて難しかった。

④③のこともあり、一般市民の参加意識は極めて低くまた高める方途も乏しかった。

- ・費用対効果、事前の市民へのPR、地域が拡すぎる等は検討。その土地、その文化、歴史、伝統工芸等の発見、地域の人の交流等成功
- ・新潟国体、「天地人」、新潟ディスティネーションキャンペーンなどと同様、様々なメディアにとり上げられる機会が増え、新潟の注目度が高まった。
- ・新潟市の歴史文化の再発見や地域の魅力の発信が出来たと思われる。また、国体・新潟DCと併せて新潟をPR出来たイベントであった。
- ・政令指定都市80余万人を有する都市での開催としては、来場者が少ないのではないか。
- ・作品に面白いものも多く話題性もあったため。
- ・新潟市民への浸透度がもう一つであった感は否めないが、自分らの故郷がどのようにしてできてきたかを知る良い機会だったと考えるから。
- ・何を持って成功とするか分かりませんが、現時点で思うことは、市民のつながりがもてたことが、よかったと思います。
- ・県外のお客様の取りこみについては、なんとも言えないところがあったと思うが、地元人間が自分の住む地域を見つめ直すきっかけになったのではと感じています。
- ・第1回目ということを考え合わせると、一応成功といってもよいのでは。
- ・個人的には、多くの作家の作品に触れることができたから。
- ・途中で本委員を交替したため、評価基準をよく理解していないから。
- ・良いにしろ悪いにしろ話題性があった。
- ・子どもたちがランドアートに参加し触れることができた。
- ・地元新潟の方が楽しまれたと思います（バンブーハウス等）。
- ・芸術祭が開催された地域間に温度差を感じた。
- ・芸術祭のコンセプトが市民に伝われきれなかったのではないか。
- ・入場者数、入館者数が当初見込みを上回り、市の一体感づくりや地域の宝の掘り起こし、文化によるまちづくりが進んだ。
- ・開催の趣旨である新潟市が培ってきた歴史・文化を次世代に伝え、国内外に発信することについては、これからの評価を待たなければならないが、来場者数が計画数を大きく超え多くの来場者を迎えることが出来たのは、一定の成功と判断できる。
- ・新潟平野の生い立ちや歴史などに対する人々の理解を深めた。ただ、事前のPR不足か、全市上げての盛り上がりやや欠けた。
- ・新潟市の歴史とあり方を全国的にPRする事が出来たが、地元（直接イベントに携わっていない方々）の盛り上がりや反応が今一つの様に感じた。
- ・多くの作品の展示や各種イベントが開催され来場者数が多かったが、他県からの来場者は予想より少なかったから。
- ・新潟市内全域とエリアが広域であったこと、また、準備期間が短かったことなどを勘案すれば、初期の目的はある程度達成されたと考えられる。但し、想定された経済効果が得られなかったこと、さらに基本である美術品（作品）展示に関し、市美術館において徹（カ

び)が発生したことなどは大きなマイナス要素である。

- ・来場者数がまちまち

<どちらかといえば成功と思わない>

- ・郊外の（屋外）作品の観客が極端に少ない
- ・事前周知がほとんどなく、水と土の芸術祭が行われることを知らない人が結構いた。もう少し早い時期から水と土の芸術祭の周知をしたほうが良かったと思う。
- ・地域が広域なことで、PR不足で、どこに何があるか、よく伝わらなかった。
- ・予算のかかりすぎ。
- ・市民に感心がなかったように思う。
- ・県外からの誘客に結びついたとは思えない
- ・各区でも工夫を凝らした作品がみられたものの、交流人口の拡大につながったかどうか疑問が残る。
- ・期間が長く、会場を各地にあり、作品も興味があるものが少なかった。
- ・外来者増、合併後の地域交流の活性化をあまり感じない

<成功と思わない>

- ・マスコミにも批判的な報道を多くされたし、一般市民をほとんどまき込めなかった。結果として、後に残ったものが、少なかった。
- ・チケットを無理矢理買わされていた人が多いと思う。

## 2 水と土の芸術祭開催によって、本市にプラスだったと思うものは何ですか。（複数回答可）

歴史文化の再発見	37名	72.5%
合併した他の地域を知ること	23名	45.1%
市民や地域の文化活動	23名	45.1%
産業の活性化	0名	0.0%
地域の活性化（地域活動、市民協働）	19名	37.3%
ネットワークの拡大	16名	31.4%
交流人口の拡大（誘客）	13名	25.5%
まちのイメージ	12名	23.5%
まちの賑わい	6名	11.8%
その他	2名	3.9%

- ・歴史文化の再発見
- ・合併した他の地域を知ること
- ・市民や地域の文化活動
- ・産業の活性化
- ・地域の活性化（地域活動，市民協働）
- ・ネットワークの拡大
- ・交流人口の拡大（誘客）
- ・まちのイメージ
- ・まちの賑わい
- ・その他（青少年の参加）
- ・その他（・歴史文化の再発見 ・合併した他の地域を知ること（バスツアーの参加者ら感想があった）
- ・まちの賑わい（松浜商店街に限定されるが）
- ・まちのイメージアップ。まちの賑わい話題提供。
- ・その他（新潟市民ボランティアの活躍，サポーターの増員）

### 3 水と土の芸術祭の継続開催についてどう考えますか。

継続した方がよい	14名	27.4%
事業を見直して継続した方がよい	24名	47.1%
やめた方がよい	8名	15.7%
その他	5名	9.8%

#### <継続した方がよい>

- ・“水と土”が新潟市のアイデンティティとして内外に認知されるには、今後さまざまな事業を継続していかないと定着しない。一過性のイベントに終わらせてはならない。
- ・芸術祭は継続してこそ価値の評価が出来るもの。グランドアートの発表の場として、形をかえても継続を願う。
- ・いつの時点で結果が出たと言えるのか分からないため、単純に、動員数などの数値では計れないものと思います。
- ・町づくりは文化づくり。芸術祭は重要な窓口となる。
- ・「継続は力なり」ですので、予算がゆるされるのであれば、2～3年に1回程度続けて行った方がよいと思います。継続することが、認知度アップにつながっていくと思います。
- ・地域の活性化につながったから。
- ・第一回の成果を継承・発展させるため、数年おきに開催したらどうか。
- ・新潟市の観光イメージのアップにより、誘客が図れること。又、新潟の観光情報の発信ともなる。

- ・継続してもよい！ 芸術を楽しむ機会になり得たから。
- ・毎年の開催とは言わないが、新潟を代表するイベントとして構築しなければ、今回の開催は成功したと言えないのではないかと。
- ・観光名所の一つとして継続希望する
- ・継続することで他市あるいは他県の人に新潟市＝水と土の芸術祭というイメージが強くなり、交流人口の拡大につながるため。また、市内の住民にとっても自分の地域の歴史文化を知るよいきっかけとなるため。

<事業を見直して継続した方がよい> その理由は

- ・アートの手法を市民は参考になったと思う。今後は、市民の独自性を活かした発表にも発展したい。
- ・青少年、子供達（小・中学生・児童）の作品製作・見学等、参加する事の喜ぶ笑顔が良かった
- ・時間・費用の見直し、無関心の方々への原因と対策を見直す。
- ・やり方・規模の継続ではなく、この理念・主旨を活かした持続可能な祭にして継続して欲しい。
- ・開催までの期間を長時間おいて、準備と住民参加に徹底した努力をする必要がある
- ・今回せっかく作ったアートを撤去するのはもったいないと思うので、継続できるものはしたほうがよいと思う。
- ・広く大勢の人が参画できる内容にしてほしい。
- ・著名な作家の展示等は事業費的に難しいと思われるが、各地区の地元住民が協力して行った事業などは継続してもいいのではと感じます。
- ・やめてしまうくらいなら、最初からやる必要はなかったということになると思う。しかし、内容はもっと子どもを含め市民が（個人あるいはグループで）主役になって進めるようなものにするのがよいと思う。
- ・市長さんが願う新潟市へと市民への意識づけを行うためには、単発では効果は薄い。継続（〇回）した取組が効果を生む。
- ・市民が気軽に参加できる芸術祭にしてほしい。
- ・開催を隔年から数年間隔で実施されたい。そうすることで企画内容の再検討に時間を掛ける事が出来、また、開催に向け関わる人々の蓄積したエネルギーを一気に発散させることができる。
- ・3年ごとの開催とし、展示場所をある程度集約するなど、準備期間を確保し、地元のより積極的な協力を得る。
- ・開催にあたっては、気運醸成をはかるため、準備期間を長く取るなど、また、作品を集中して展示する、また、開催期間をもう少し早めにするなどの工夫が必要と思う。
- ・市民の方への周知をさらに徹底して頂き、全国から芸術祭作品を展示できる様な工夫をして多くの方に鑑賞してもらえらる仕組みを作ってもらいたい
- ・新潟の文化をアピールするためには定期開催が必要

- ・今回が初期投資であるにとらえれば、今後は今回培ったノウハウや人脈等を活かしながら事業の見直しを図り、経済効果のUPを目指すことが望ましいと考える。
- ・集客力があるイベント・催しを
- ・料金なども検討すべき
- ・全市では広すぎるので、地域を絞ってスポットを当てるなどの工夫をお願いしたい

<やめた方が良い> その理由は

- ・①「区の実行委員」はじめ関係者の責務・位置づけ・権限等極めて不明確であり、また区に活動拠点もないこともあって、「やりがいや存在感」が乏しかった。
- ・②「市民に感動や共感」を得られるためには期間、地域の独自性等を熟慮して開催すべきである。
- ・経費が多額なので（経費削減してほしいので）
- ・予算を集中して、インパクトのある、集客力のあるイベントにして、新潟市を全国にPRしてほしい。
- ・経済効果がないと思います。
- ・経費がかかり過ぎる
- ・感心を持つ人が少なかった

<その他> その理由は

- ・継続するか否かについては、今回の芸術祭に対する市民・議会等の意見を踏まえた上で検討する必要がある。
- ・昨年は、県内で数々のイベントが開催されたことによる集客効果もあったと思われるため、今後の開催については、今回の開催を十分分析いただき検討願いたい。
- ・事業費用がどの程度かかったのかが分からない為。また、費用対効果がどの程度あったのか？
- ・本事業について総括した上で、継続するか、やめるか検討したらどうか。経費対効果（観光面だけでなく産業の活性化を含めて）の検討もしてもらいたい。
- ・趣旨は賛同できるが、すすめ方が良くないのでは。
- ・多額の費用をかけて開催した芸術祭であり、しっかりとした検証等に基づいて今後のことを考えるべきであり、現時点ではどちらとも言えない。

4 上記で継続を選んだ方にお聞きします。何を見直したらいいと思いますか。（複数回答可）

事業費	11名	21.6%
作品数・作家数	18名	35.3%
展示場所	22名	43.1%
運営体制	16名	31.4%
その他	19名	37.3%



<事業費> その理由は

- ・①期間限定の展示が中心なので事業費が多額になる点を見直す。
- ・②地域イベントに重点化すると少ない事業費で継続できる。
- ・最低限の必要経費を助成金で補い、参加市民から運営費を徴収することで協働開催の意義と継続性を高める。一方、作品の価値観を運営費徴収した参加者と総合評価することで市民文化の効用性を高め相互発言・思考等で価値観の評価が今後をつなぐ。
- ・公金出費2億、経済界、市民に広く寄附を募る。文化面での効果、経済（観光）を考えると公金を半減して継続。但し4年に1回とする。
- ・正確な数字をとらえていないが、事業内容から検討を。
- ・無理なくやるために縮小傾向で。
- ・妥当である。
- ・縮小すべし。
- ・芸術を楽しむ（祭）という視点からの見直し。
- ・費用対効果の面から
- ・事業費がいくらなのかよく分からない

<作品数・作家数> その理由は

- ・北区の場合を例にすると、地理的な条件や交通アクセスを考慮すると2～3点で良い。
- ・第1回目として世界のアートが作品展示に参加したが、開催を通じて説明責任が乏しかったように思う。その意味で物語性豊かな地元アートの育成が急務である。
- ・半減。作品の質、価値観等を考えると。
- ・地元の伝統芸能の一大イベント化
- ・地元作家の作品の採用
- ・外にあるアートをもっと増やせば、新潟の名所になったりしてよいと思う。
- ・今回よりも更に多くの作品数があると良いと思います。
- ・「水と土」と関連する作品が必要（このたびの芸術祭の作品は素人目では関連性があまりないように感じる。）
- ・もう少し絞っても良い。
- ・一流作家というふれこみで、実際そうなのかもしれないが、一般への知名度は、ほとんどなく、集客力もなかった。
- ・地元の住民が地元を再発見できる場とし、また地元住民が地元を見直せる機会にできればと感じます。（著名な作家の展示は必要なしと思います）
- ・予算内で可能な限り多く。特に、制作のプロセスからかかわれる作家を。
- ・市民からの作品を増やしてほしい。
- ・全てまわりきれなかったのもう少し減らしてもいいのではないのでしょうか。
- ・多すぎた。
- ・芸術を楽しむ（祭）という視点からの見直し。
- ・作品が多く分散してしまった。拠点化すべき
- ・やや多すぎるかも

<展示場所> その理由は

- ・北区の場合を例にすると、地理的な条件や交通アクセスを考慮すると2～3点で良い。
- ・地域の物語性を重視した展示場が必要であるが、作家は十分心得ていると思われる。したがって公共施設の場合、話し合いで可能な限り見とめる方向性で考慮ねがいたい。
- ・各区に作品展示場を限定することにより、見やすく、イベントも盛り上がりあり。
- ・広い地域の作品群の案内には、案内旗、ボードが小さ過ぎたと思いました。
- ・交通の利便性（環状線上）を考慮すべき
- ・もう少し展示場所が増えると良いと思います。
- ・作品によっては、大きく土地条件に制約されることもあり、事前に展示場所を決めて、応募を決めてみては。
- ・作品展示場所が分散しすぎる。
- ・もう少し集中的に行なうべきで、今後全く活用されないのでは？と思える作品が多数ある。
- ・もっと狭いエリアに限定し、密度を出した方がよいと思う。毎回エリアを変えることにしてはどうか。
- ・拡散しすぎた展示場所、とりわけランドアートを1区1ヶ所に絞り、可能な限り数多く。今回はこの展示場所が問題だったと考える。
- ・わかりやすい地図があるとよかったです。
- ・今後とも市内一円とする展示により、新潟市内の魅力の再発見の一助となるものと考えていますが、展示場所への交通手段や案内の充実をお願いしたい。
- ・メインとなる会場の設置と同会場で来客者が参加できるイベントを期間中継続的（隔週又は月一）に開催が出来れば、さらに集客につながるのではないかと。
- ・作品が分散しすぎており、可能な範囲で集約すべき。
- ・芸術を楽しむ（祭）という視点からの見直し。
- ・作品の展示場所が分散しすぎているため作品を部分的しか見れなかった（自宅の近辺での行動範囲が優先したため）
- ・もう少し、駅周辺に芸術作品を展示してもらいたかった
- ・県外客に分かりやすく行きやすいように展示場所を3～5ヶ所ぐらいにまとめた方がよいと思う。
- ・バスを採用したのはよかったが、車でないと行けない場所が多くあった。
- ・自然災害など、天候も考えた方がよい

<運営体制> その理由は

- ・①交流推進課一極体制から各区の地域課や公民館等の連携運営が望ましい。
- ・②活動拠点は市の各種施設（連絡所 etc）を活用し、地域住民参加型にする。
- ・制作アート及び制作団体中心に運営・管理態勢を堅持するのは当然であるが、同時にサポーターの育成が必要で次につながるアートの育成として持続可能な芸術文化アート育成に関与すると思う。
- ・事前のPRを十分に行うことにより、実行委員会のサポーターズはもちろん、各区（区民サポーターズ）応援隊をつくる。

- ・最初からどういう人達の意見を集約する計画をなされたのでしょうか。水と土の芸術祭実行委員として参加させて頂きましたが、初回からでなく最後の1回だけというのは如何なものでしょうか。
- ・あて職は極力避け、芸術・文化に意欲と理解のある方を多く採用し実行委員会等を組織すべき
- ・広報が遅かったと思う。
- ・一元化するのではなく、各区に予算・企画を任せるべきでは？また、教育プロジェクトなどを拡大させるべきだ。
- ・自分たちの芸術祭であると感じるためにも、サポーターの役割を超えて、市民が企画、運営の各局面に関わるようにすべきだと思う。
- ・今回は、事務局・プロジェクトチーム・サポーター・プロデューサー・運営委員会と色々な組織が入り乱れていたように思われる。総括しすっきりさせるべきではと考える。
- ・担当職員が多忙で大変そうだった。もっと職員ボランティアが増えるといいのにと思います。
- ・NPOをはじめとした民間団体を中心とした運営を行うことにより継続的な取組みとなる体制の確立を図る。
- ・地元の理解と協力により、ボランティア・サポーターを倍増する。
- ・芸術を楽しむ（祭）という視点からの見直し。
- ・開催の半年前以上にはパンフレットを作成し、旅行会社へ商品化してもらえるようにして欲しい。
- ・よく分からない（体制が）

<その他> その理由は

- ・よりよいものにしていくためには、さまざまな見直しが必要。市民と地域をまきこみ、時間をかけて行うことが大事。
- ・新潟市は水と土に恵まれ眠っている地域文化を掘り起こし観光資源としてアピールする。新潟市は高速交通体系に恵まれながら文化施設や観光資源に乏しく、佐渡観光客や北海道フェリー観光客は新潟市を通過点として素通り。日本一長い信濃川河口に港を構える新潟市の新鮮食品旨い物を佐渡や北海道と連携した有客を考える必要を強く感じている。そのためにも水土芸術祭は必要である。
- ・市民が楽しむ。市民が交流、一体感の醸成を基とするイベントとする。
- ・コーディネーターの人選（新潟において知名度の高い方）
- ・大勢の人が興味を持てる内容にしてほしい（このたびの芸術祭は一部の興味のある方のみ参加している気がするため）。
- ・意義・内容を伝えるには、ちょっと告知開始時期が遅かったような気がします。
- ・開催期間が長すぎる。いつ始まって、いつ終わったのか、ほとんどの人が知らない。（夏休みの一ヶ月で十分）
- ・アーティストに依存しすぎたと思う。市民をアーティストに生まれ変わらせるようなプロジェクトを目指すべきだと思う。

- ・期間も一時期に集中させて方がよいと思う。
- ・留学生や在住外国人の参加・協力の拡大を図る。外国人の視点・観点での事業の見直しや改革が期待できる。また、本市の国際化やイメージアップに寄与する。
- ・PR 不足を感じた。
- ・新潟市が湊まちとして発展してきた歴史や湊を感じる事が出来る展示やイベントの企画を増やし、湊まち新潟を全国に発信できればと思う。
- ・芸術を楽しむ（祭）という視点からの見直し。
- ・この機会に初めて美術館に行ったが芸術と触れ合えて良かった。
- ・その他の協賛された有料の豪農の家等はPRの意味で無料とするような工夫が出来なかったものでしょうか。
- ・市全体、同期間の実施は無理があるので各地域毎に期間を短縮して継続したらと考えます。
- ・最終的には50万人を超える多数の来場者で終わることができ大いに新潟市の歴史・文化を伝えられたのではないかと。今後もスリムになっても良いから国内外・特に都会人が憧れる新潟市の田舎らしさをPRし、地域・産業の活性化を図って欲しい。
- ・今回の芸術祭を見た人たち（イベント関係者ではない）の意見が重要になると思うので、それを以って次回の検討を行うべき。
- ・駐車場の確保。展示範囲が広くにまたがるため、車で移動する人が多いと思われるので、できるだけ駐車場を確保できるところに作品があった方がよい
- ・対象の明確化および差別化
- ・JA等の農業団体の関わりがあまりなかったのでは何とも言えない。

5 その他、水と土の芸術祭について気がついた点がございましたらご記入ください。

- ・芸術祭に（直接）関わった人ほど評価する傾向にある。
- ・①政令市合併の市政運営の本旨である「分権型政令市」の精神に則り、“地域性”を強調した芸術祭は市の総合的な文化や活力を高めていく上で重要な要素と思う。  
②①のことから「地域イベント」は作家による芸術品の展示会場よりはるかに多い人が参加した事例が多く市民の共感を得られるポイントであることを考慮して芸術祭を行うことが必要と思う。
- ・観光資源（一過性の）としては無理と考える。
- ・53万人の人が水と土の芸術祭に参加された事は評価されると思います。只詳しい内容がわかりませんが財政的面や準備期間からして隔年にし規模も縮小して内容の充実を計る等、例えば、季節毎とか、区毎とか、食の芸術祭も含めるとか工夫を考えたらと思います。更に運営について地域との一体感が無かった様に感じました。
- ・市民の皆様を理解してもらっていなかったと思う。感心がなかったと思う。色々作品が多すぎたと思う。
- ・テレビCM等のメディアへの露出が不足で、前売り券を買ったが、どこでどう使うのか、分かりにくかった。

- ・産業界・経済界は今一関心が薄かった。本事業にはパスポートの購入やPRを通じて協力したが、期待したような成果には結びつかなかった。
- ・時間の制約がある中、担当された皆様は、休日返上の毎日だったと思います。本当におつかれ様でした。
- ・同じ作品でも、ホームページ上での展示場所と、パンフレット上での展示場所がわずかですが異なっている場所がありました。
- ・「みずっちパラダイス（教育プロジェクト）」は、活力ある未来の文化的市民の育成の観点から、ぜひ、事業としての継続をお願いしたい。
- ・パスポートの購入状況？
- ・児童生徒へ配布した数？
- ・委員なのにこんなことを書いてはいけないかもしれませんが、本祭の成果をどのように評価した（する）のでしょうか。（先回の実行委員会、都合で欠席でした）成果、今後の継続等は、児童生徒、市民の声も十分検討した上で、方向を決定してほしい。
- ・新潟の新しい町づくり、文化を担う子供たちのためにぜひトリエンナーレでも開催継続を。
- ・個人的には家族で数ヶ所訪問し楽しませて頂きました。ありがとうございました。
- ・各区に展示したのはそれぞれの地域の祭りへの参加意識を高めようとする狙いがあるのは判るが結果的に広範囲に分散したために部分的な参加しか出来なかった方々が多いと思われる。逆に展示は1～2ヶ所程度（各区持ち回り）で良かったような気がする。
- ・本当に市民の人達が楽しみにしていたかどうか。
- ・チケットがあるから行こうとしていたと思います。
- ・ウォーキングをしながら、何点かの作品を見れる様な作品配置をお願いしたい
- ・事前の根回しが足りず市民全体の共感を得る事が出来なかった
- ・現代アートの存在を知る機会になった
- ・どうしても大地の芸術祭とダブってしまうので、いかに違いを出すかが重要だと思う（逆に一体化させてもいいかもしれないが）
- ・短期間に集中して開催した方が盛り上がる。
- ・地域の宝ものを掘り起こすこと、宝ものをつくること、その表現にアーティストの感性を活用する「芸術祭」で良いのではないか。アーティストありきから始めると地域がかすんでします。

## 2. 来場者アンケート（新潟経済社会リサーチセンター実施）

### （1）調査の実施概要

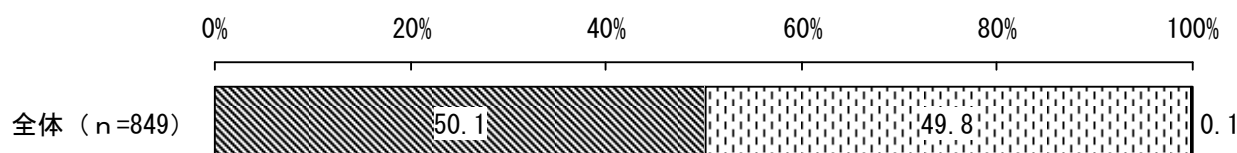
4 ページに記載のとおりである。

### （2）回答者の属性

#### ① 性別

来場者の性別をみると、「男性」が 50.1%、「女性」が 49.8%で、ほぼ半々となっている（図表 1）。

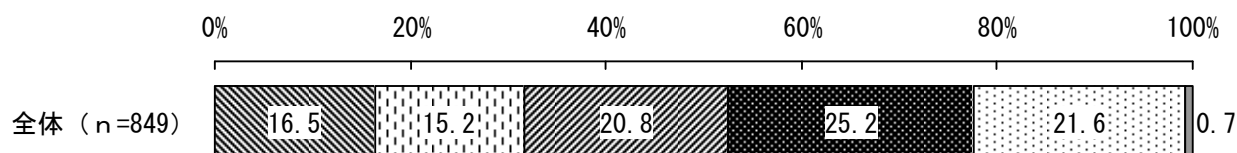
【図表 1 来場者の性別】



#### ② 年代

来場者の年代をみると、「50代」が 25.2%で最も高く、以下「60代以上」(21.6%)、「40代」(20.8%)、「20代以下」(16.5%)、「30代」(15.2%)の順となっている（図表 2）。

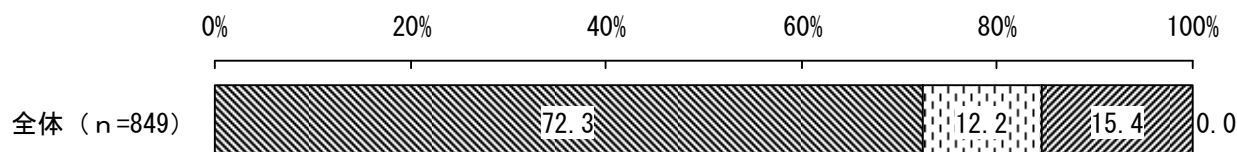
【図表 2 来場者の年代】



#### ③ 現住所

来場者の現住所をみると、「新潟市内」が 72.3%、「新潟市以外の新潟県内」が 12.2%、「新潟県外」が 15.4%となっており、「新潟市内」と「新潟市以外の新潟県内」を合わせた新潟県内が 8割強を占めている（図表 3）。

【図表 3 来場者の現住所】

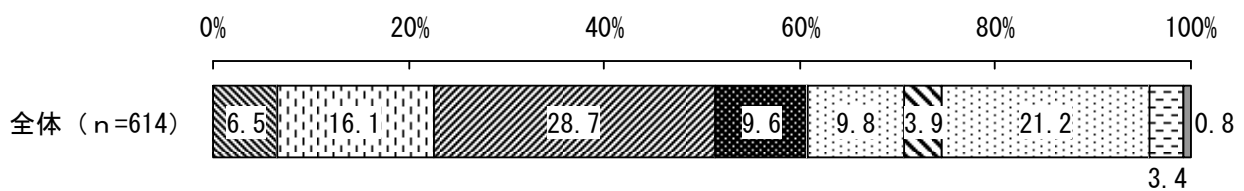


調査時期別にみると、『夏期』では、「新潟県外」(19.3%)が約2割であるのに対して、『秋期』では、「新潟県外」(10.3%)は約1割となっている。

「新潟市内」の来場者の現住所を区別にみると、「中央区」が28.7%で最も高く、以下「西区」(21.2%)、「東区」(16.1%)、「秋葉区」(9.8%)、「江南区」(9.6%)などの順となっている(図表4)。

「新潟市以外の新潟県内」の来場者の現住所を市町村別にみると、「長岡市」、「燕市」、「三条市」、「新発田市」などの割合が高くなっている。また、「新潟県外」の来場者の現住所を都道府県別にみると、「関東地方」からの来場者が6割超となっている。

【図表4 新潟市内からの来場者の現住所】

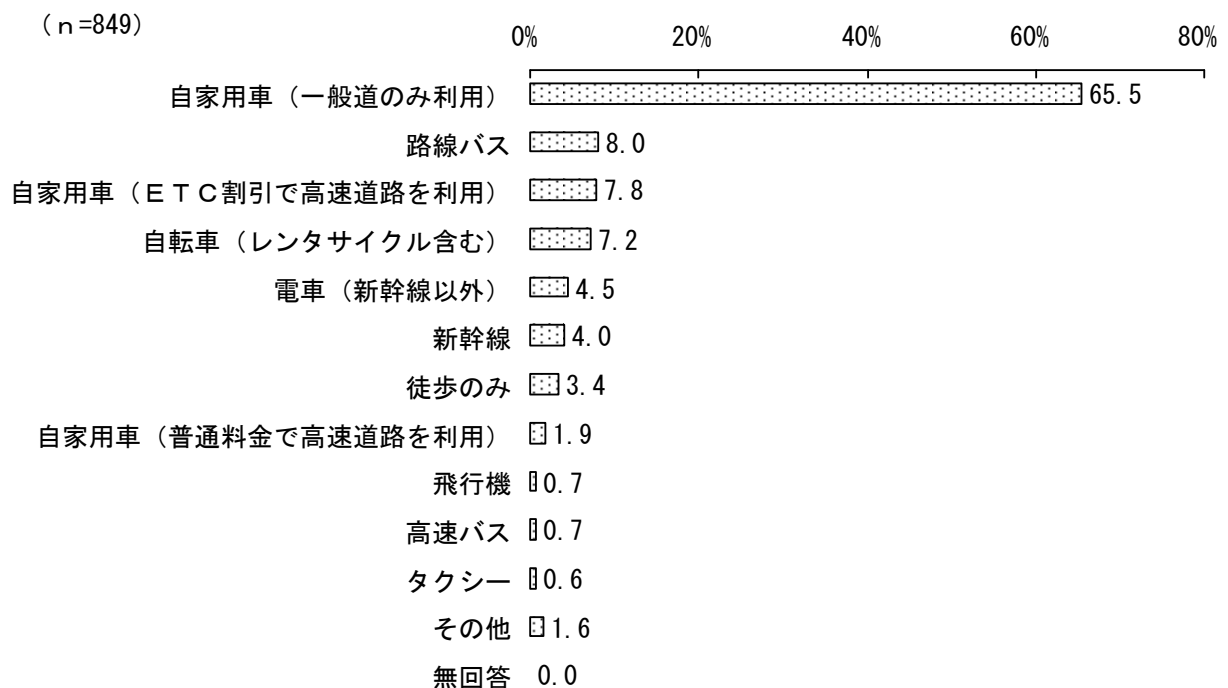


(3) 来場に際しての交通手段

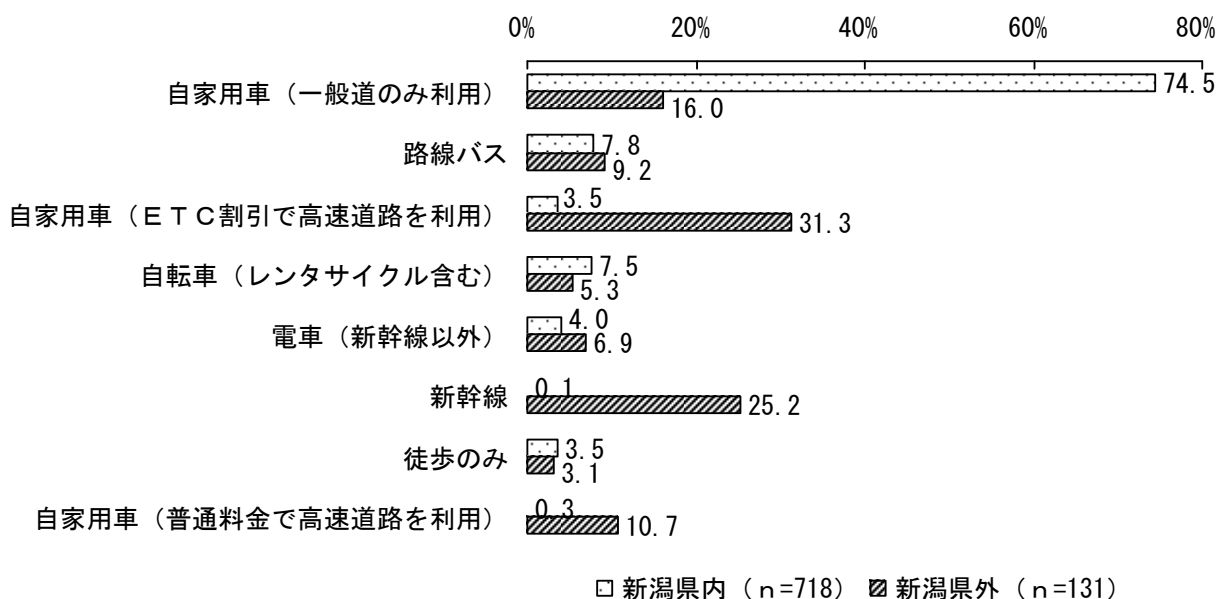
来場に際しての交通手段(複数回答)を尋ねたところ、「自家用車(一般道のみ利用)」(65.5%)が6割以上を占めており、「自家用車(E T C割引で高速道路を利用)」(7.8%)と「自家用車(普通料金で高速道路を利用)」(1.9%)を含めると、自家用車での来場が75%以上を占めている(図表5)。

現住所別にみると、『新潟県外』の来場者では『新潟県内』に比べて、「自家用車(E T C割引で高速道路を利用)」や「新幹線」などの割合が高くなっている(図表6)。

【図表5 来場に際しての交通手段(複数回答)】



【図表6 来場の際しての交通手段（複数回答、現住所別、上位8項目のみ）】

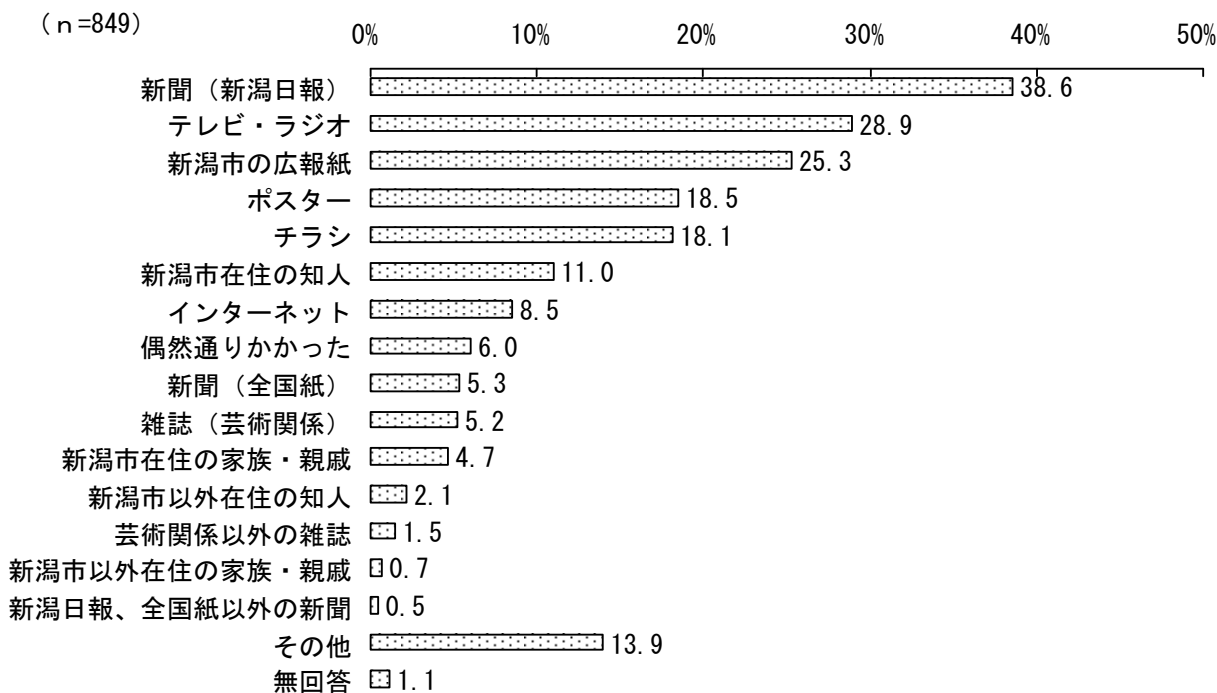


(4) 本芸術祭を知った情報媒体

本芸術祭を知った情報媒体（複数回答）を尋ねたところ、「新聞（新潟日報）」が38.6%で最も高く、以下「テレビ・ラジオ」（28.9%）、「新潟市の広報紙」（25.3%）、「ポスター」（18.5%）などの順となっている（図表8）。

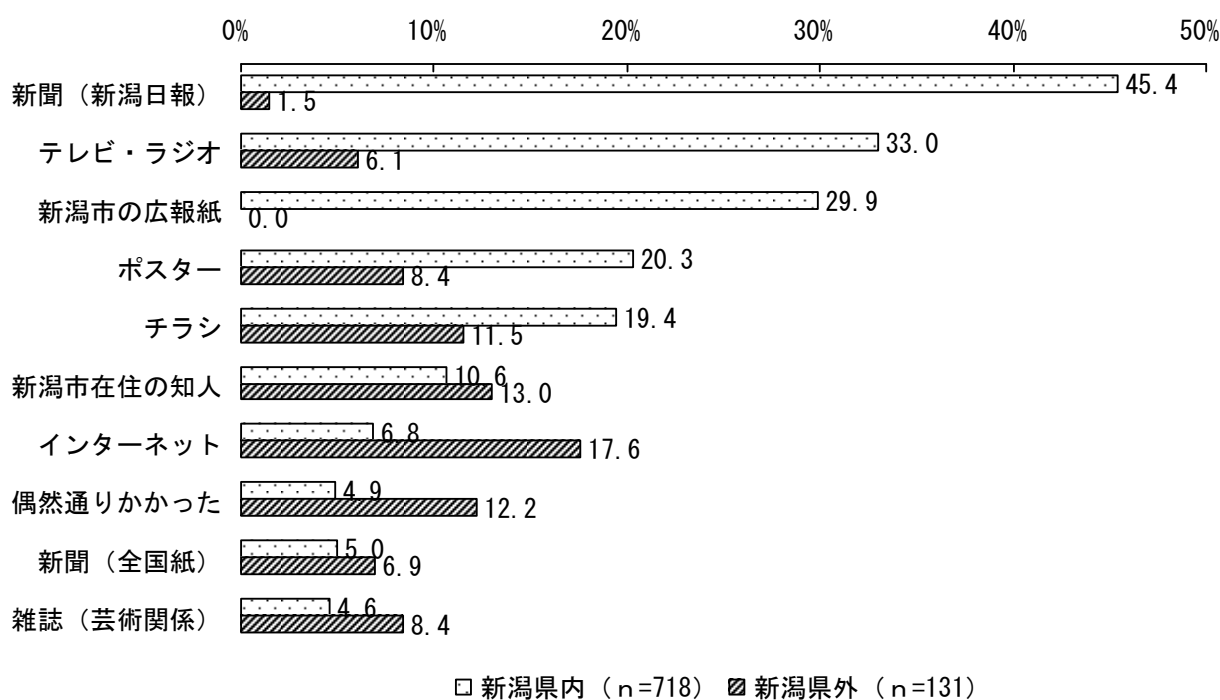
現住所別にみると、『新潟県外』の来場者では『新潟県内』の来場者に比べて、「インターネット」や「新潟市在住の知人」、「偶然通りかかった」などの割合が高くなっている（図表9）。

【図表8 本芸術祭を知った情報媒体（複数回答）】





【図表9 本芸術祭を知った情報媒体（複数回答、現住所別、上位10項目のみ）】

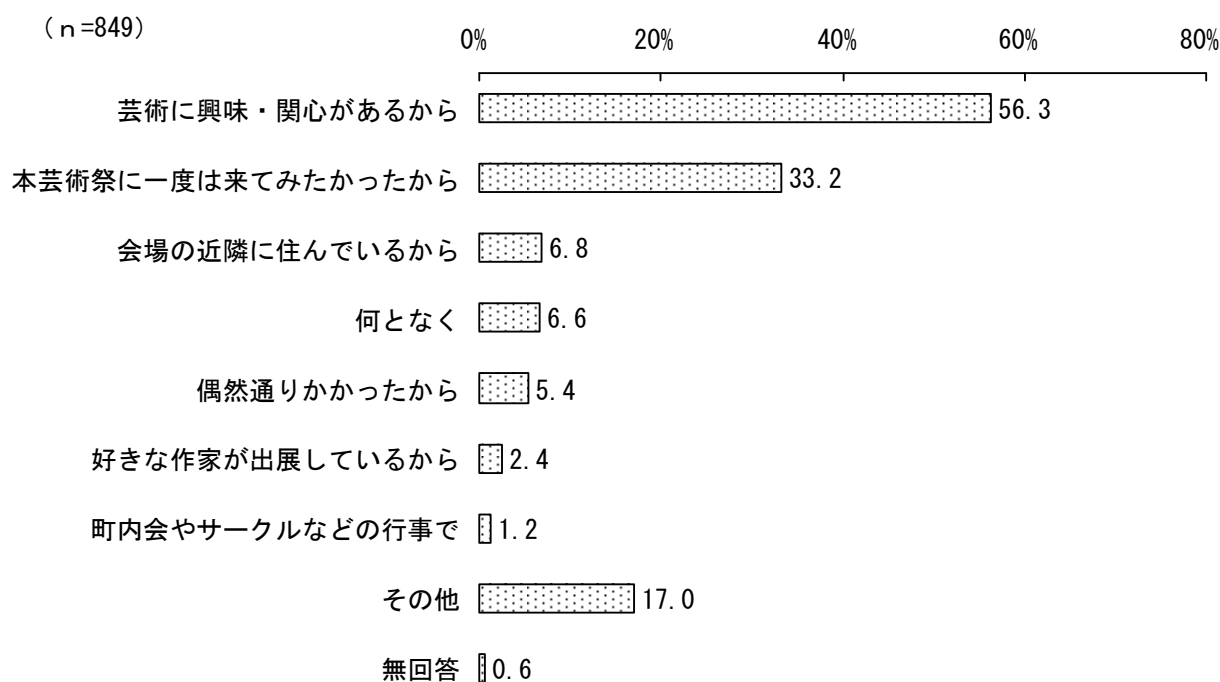


(5) 本芸術祭を訪れた理由

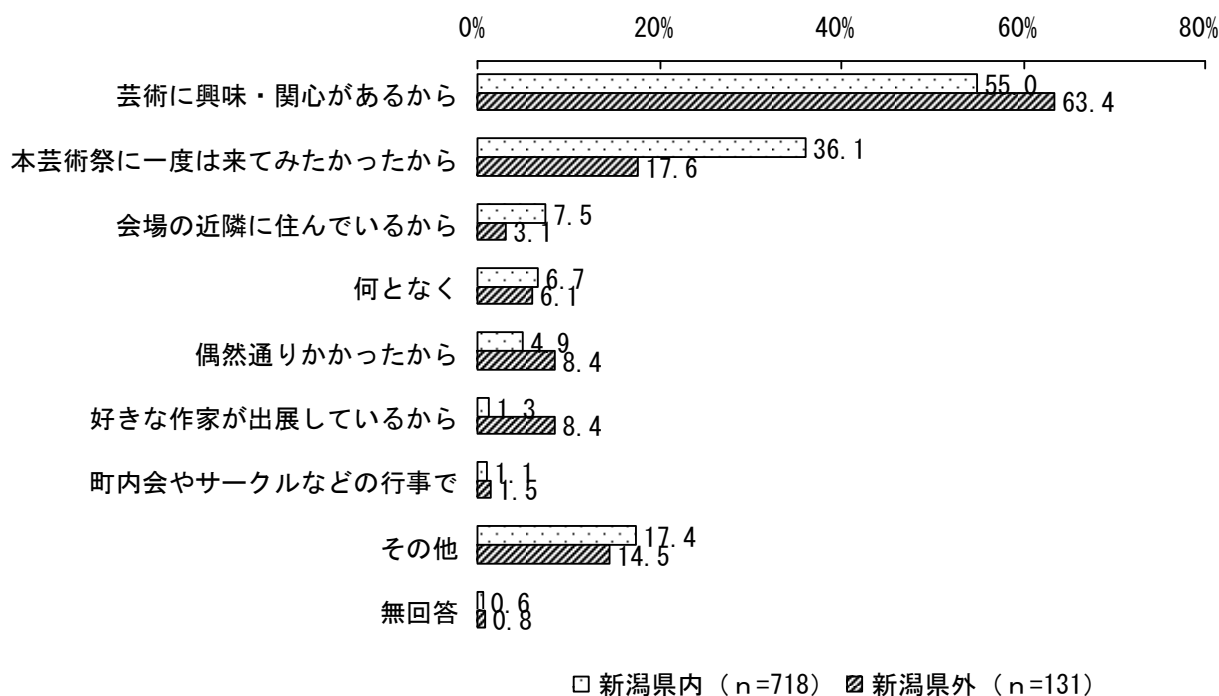
本芸術祭を訪れた理由（2つまでの複数回答）を尋ねたところ、「芸術に興味・関心があるから」が56.3%で最も高く、次いで「本芸術祭に一度は来てみたかったから」が33.2%などとなっている（図表10）。

現住所別にみると、『新潟県外』の来場者では『新潟県内』の来場者に比べて、「芸術に興味・関心があるから」や「好きな作家が出展しているから」などの割合が高くなっている（図表11）。

【図表10 本芸術祭を訪れた理由（2つまでの複数回答）】



【図表 11 本芸術祭を訪れた理由（2つまでの複数回答、現住所別）】



(6) 一日に訪れた会場数

一日に訪れた（予定を含む）会場数を、有料・無料会場それぞれについて尋ねたところ、夏期・秋期調査合計で、有料会場を訪れた会場数の平均値（回答のあった来場者の単純平均、以下同じ）は1.52会場、無料会場は0.86会場となった。

県内客・県外客別にみると、県内客合計では、有料会場が1.48会場、無料会場が0.84会場となり、県外客合計では、有料会場が1.72会場、無料会場が1.02会場となった。

日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客合計では、有料会場が1.49会場、無料会場が0.84会場となり、宿泊客合計では、有料会場が1.77会場、無料会場が1.04会場となった（図表12）。

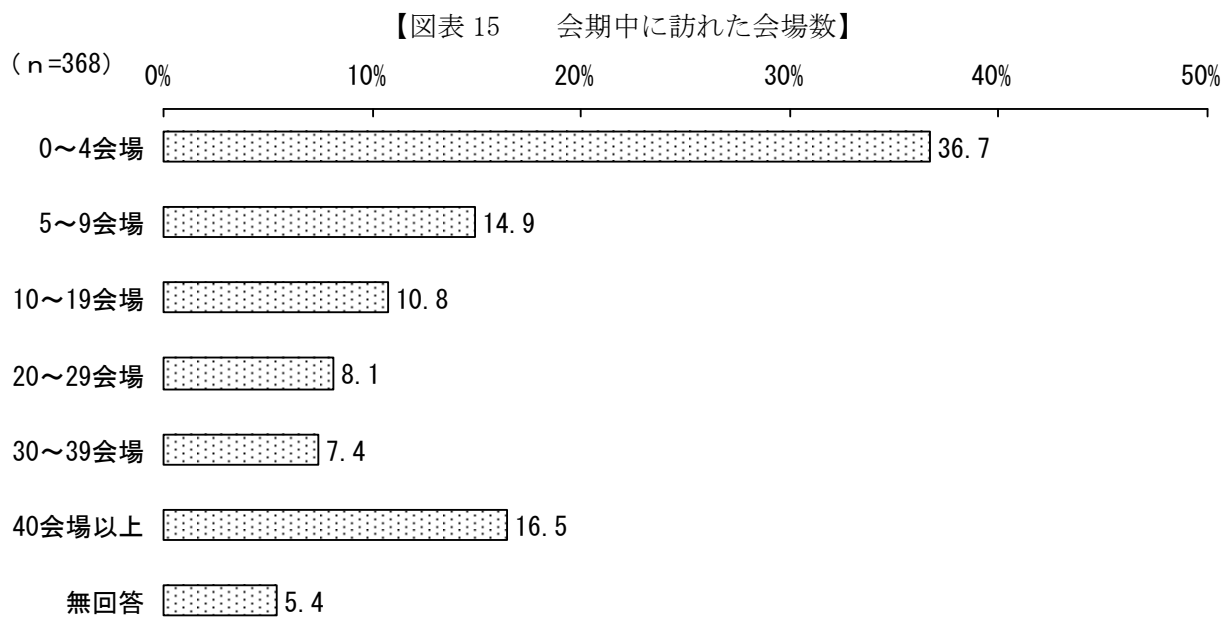
【図表 12 一日に訪れた会場数】

（単位：会場〔地点〕）

	合 計			県 内 客			県 外 客		
	合 計	日帰り客	宿 泊 客	合 計	日帰り客	宿 泊 客	合 計	日帰り客	宿 泊 客
有料会場	1.52	1.49	1.77	1.48	1.48	1.25	1.72	1.56	1.80
無料会場	0.86	0.84	1.04	0.84	0.84	1.00	1.02	0.95	1.05

(8) 会期中に訪れた会場数

訪れた会場数の平均値（回答のあった来場者の単純平均）は 15.36 会場となった。

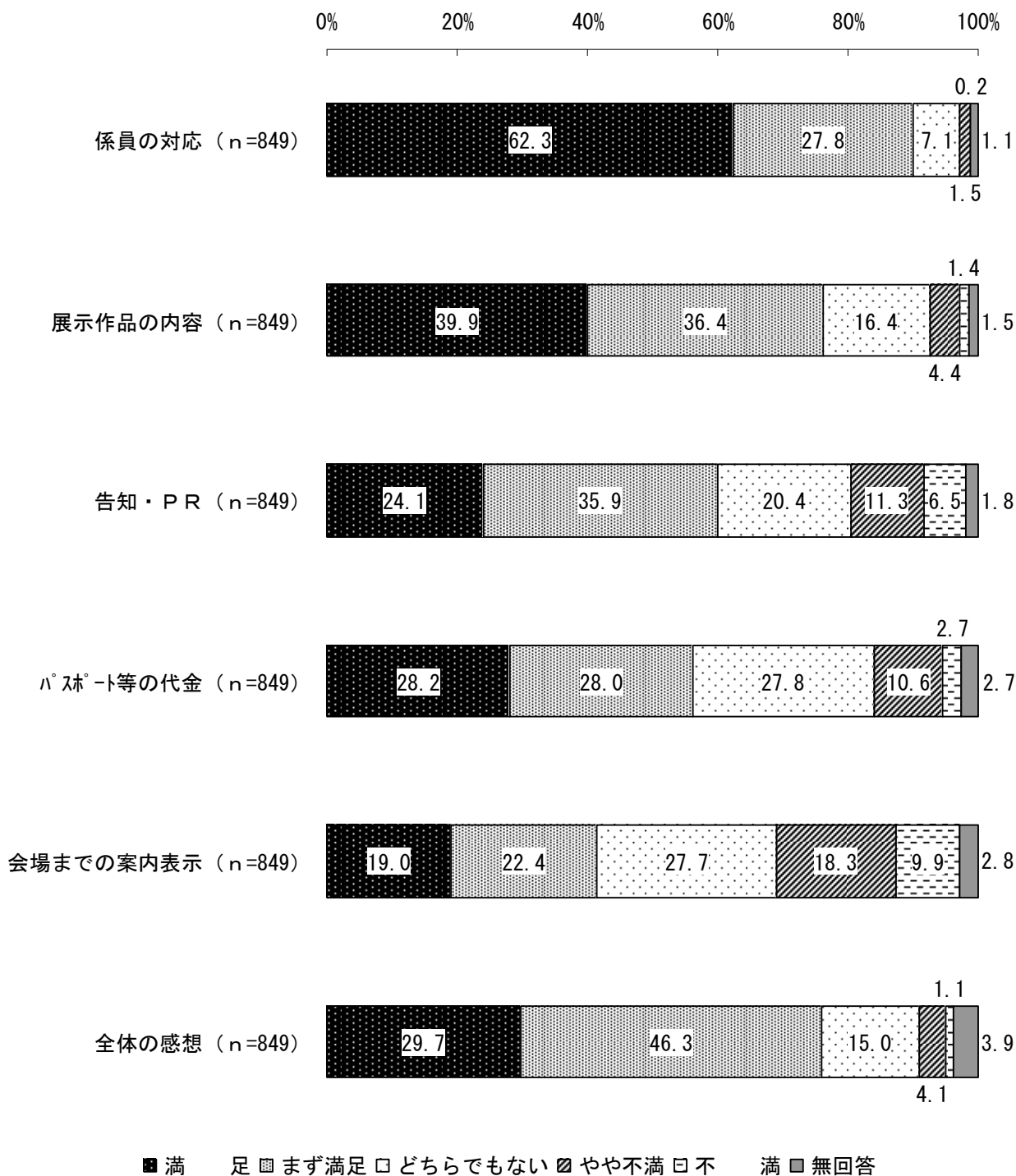


(9) 本芸術祭鑑賞後の感想

① 全体結果

本芸術祭鑑賞後の感想を個別の5項目と全体の感想に分けてそれぞれ5段階で尋ねたところ、評価が高い項目は、『係員の対応』や『展示作品の内容』となっている。一方、評価が低い項目は、『会場までの案内表示』となっている。また、全体の感想では、8割近くの来場者が、「満足」または「まず満足」としている（図表17）。

【図表 17 本芸術祭鑑賞後の感想】



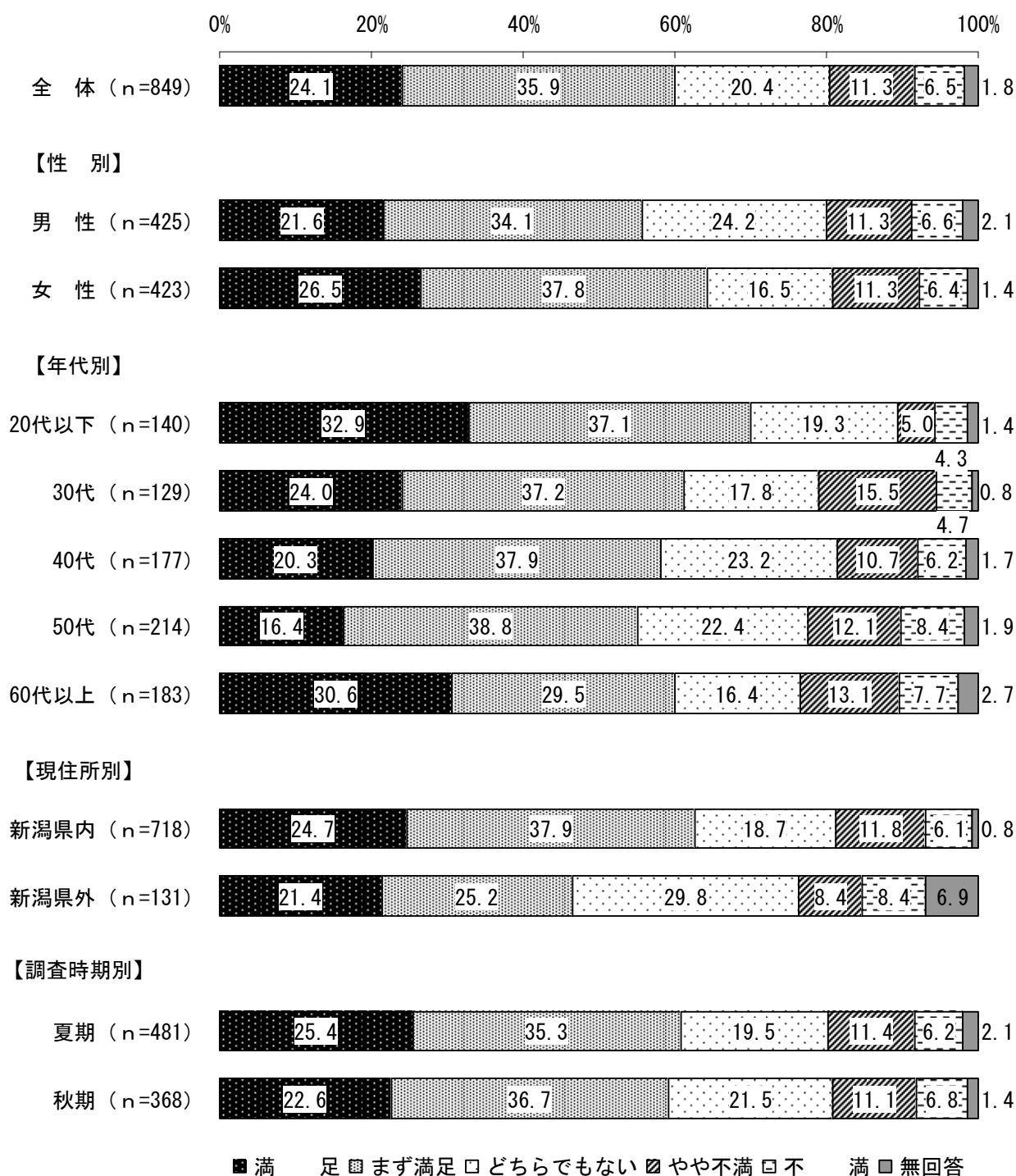
② 告知・PRについて（属性別）

本芸術祭の告知・PRについての感想を性別にみると、『女性』では『男性』に比べて、「満足」と「まず満足」の割合の合計がやや高くなっている。

年代別にみると、『20代以下』から『50代』までは、若い年代ほど、「満足」と「まず満足」の割合の合計が高くなっている。

現住所別にみると、『新潟県内』の来場者では『新潟県外』に比べて、「満足」と「まず満足」の割合の合計が高くなっている（図表 18）。

【図表 18 本芸術祭鑑賞後の感想（告知・PRについて、属性別）】



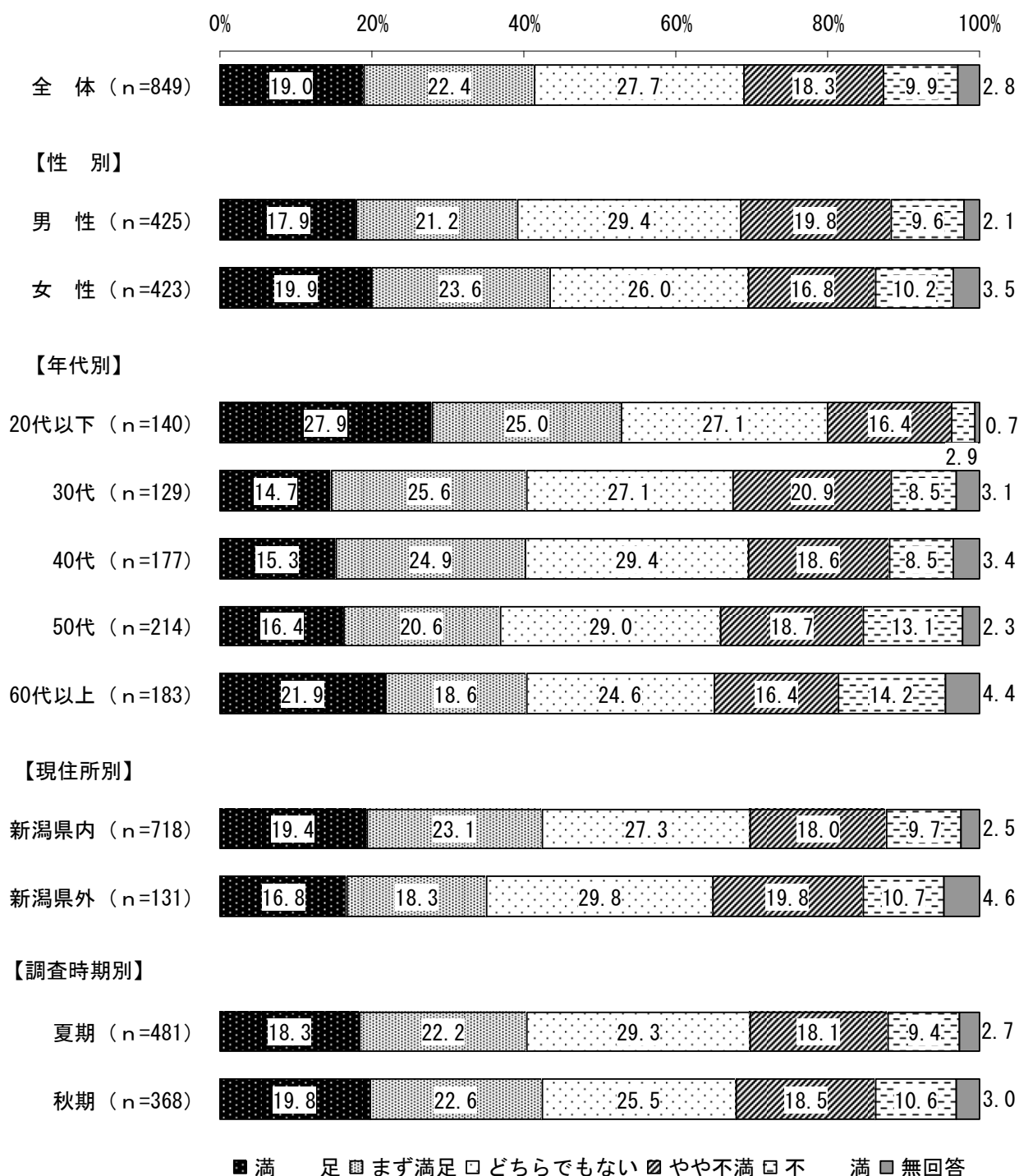
③ 会場までの案内表示について（属性別）

会場までの案内表示についての感想を性別にみても、あまり大きな差はみられない。

年代別にみると、『20代以下』では他の年代に比べて、「満足」と「まず満足」の割合の合計が高くなっている。

現住所別にみると、『新潟県内』の来場者では『新潟県外』に比べて、「満足」と「まず満足」の割合の合計が高くなっている（図表 19）。

【図表 19 本芸術祭鑑賞後の感想（会場までの案内表示について、属性別）】



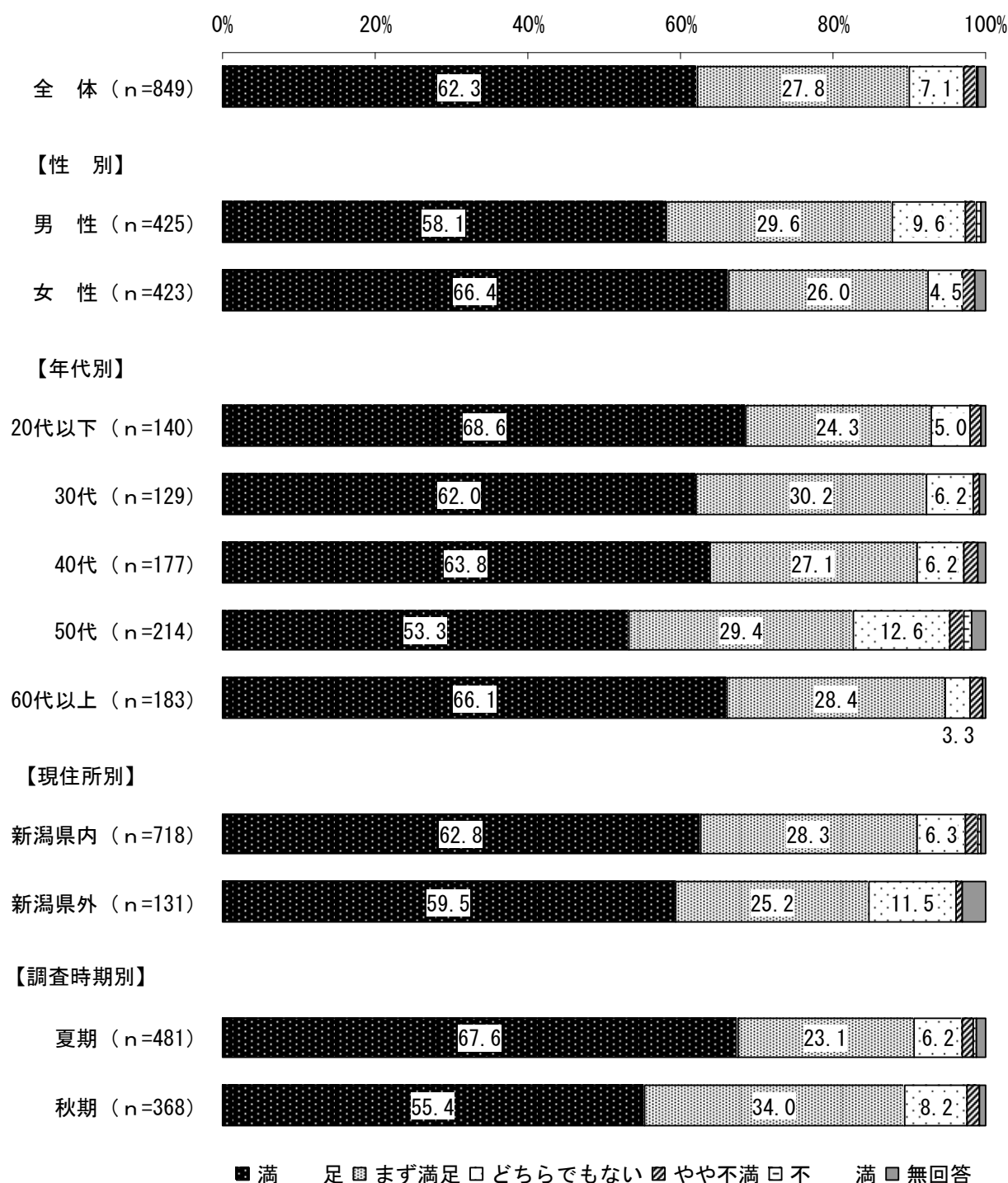
④ 係員の対応について（属性別）

会場の係員の対応についての感想を性別にみると、『女性』は『男性』に比べて、「満足」の割合がやや高くなっている。

年代別にみると、『50代』では他の年代に比べて、「満足」の割合が低くなっている。また、現住所別にみると、『新潟県内』の来場者では『新潟県外』に比べて、「満足」と「まず満足」の割合の合計が高くなっている。

調査時期別にみると、『夏期』では『秋期』に比べて、「満足」の割合が高くなっている（図表20）。

【図表20 本芸術祭鑑賞後の感想（会場の係員の対応について、属性別）】

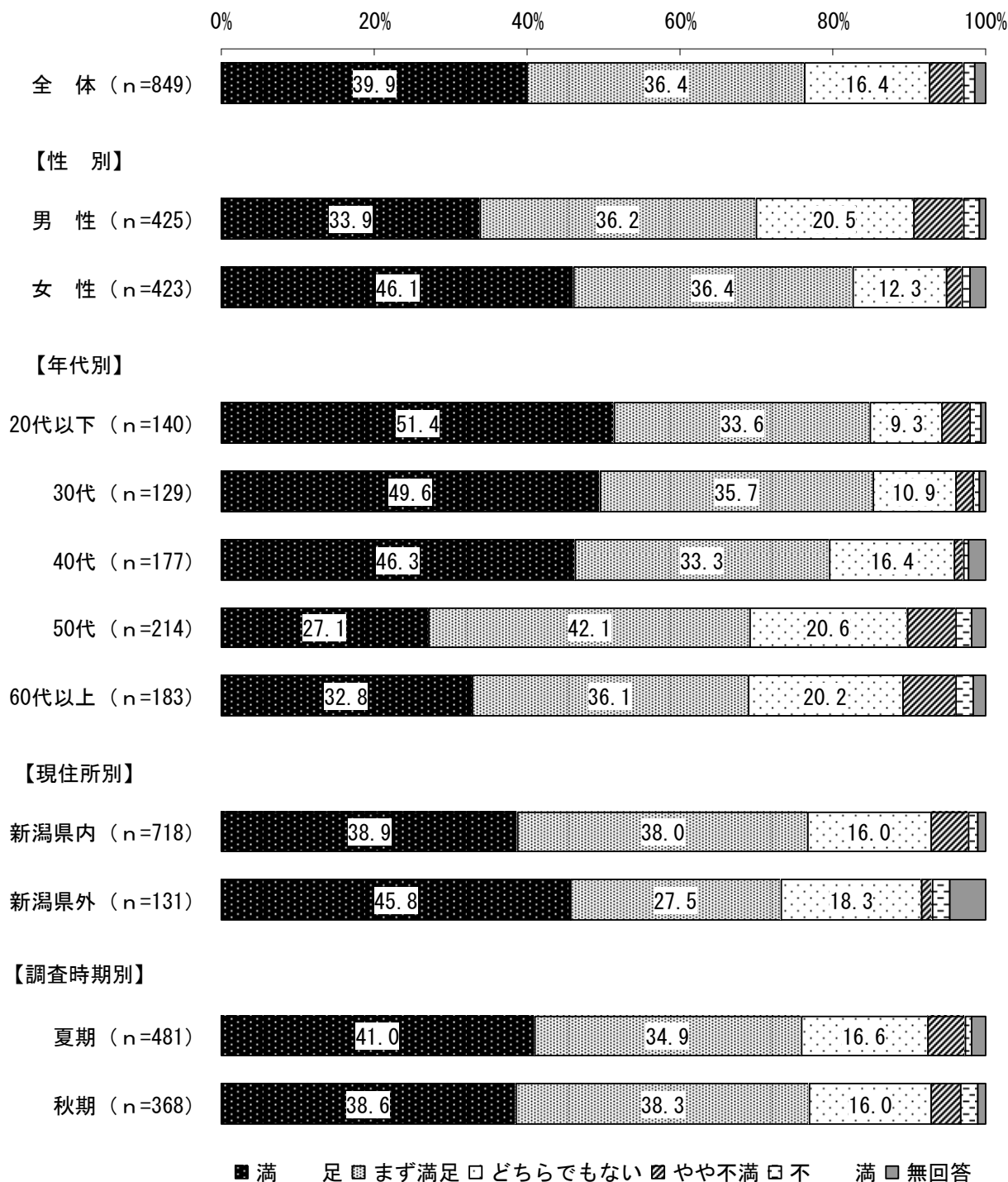


⑤ 展示作品の内容について（属性別）

展示作品の内容についての感想を性別にみると、『女性』では『男性』に比べて、「満足」と「やや満足」の割合の合計が高くなっている。

年代別にみると、『40代』以下の年代では『50代』以上に比べて、「満足」と「やや満足」の割合の合計が高くなっている（図表 21）。

【図表 21 本芸術祭鑑賞後の感想（展示作品の内容について、属性別）】





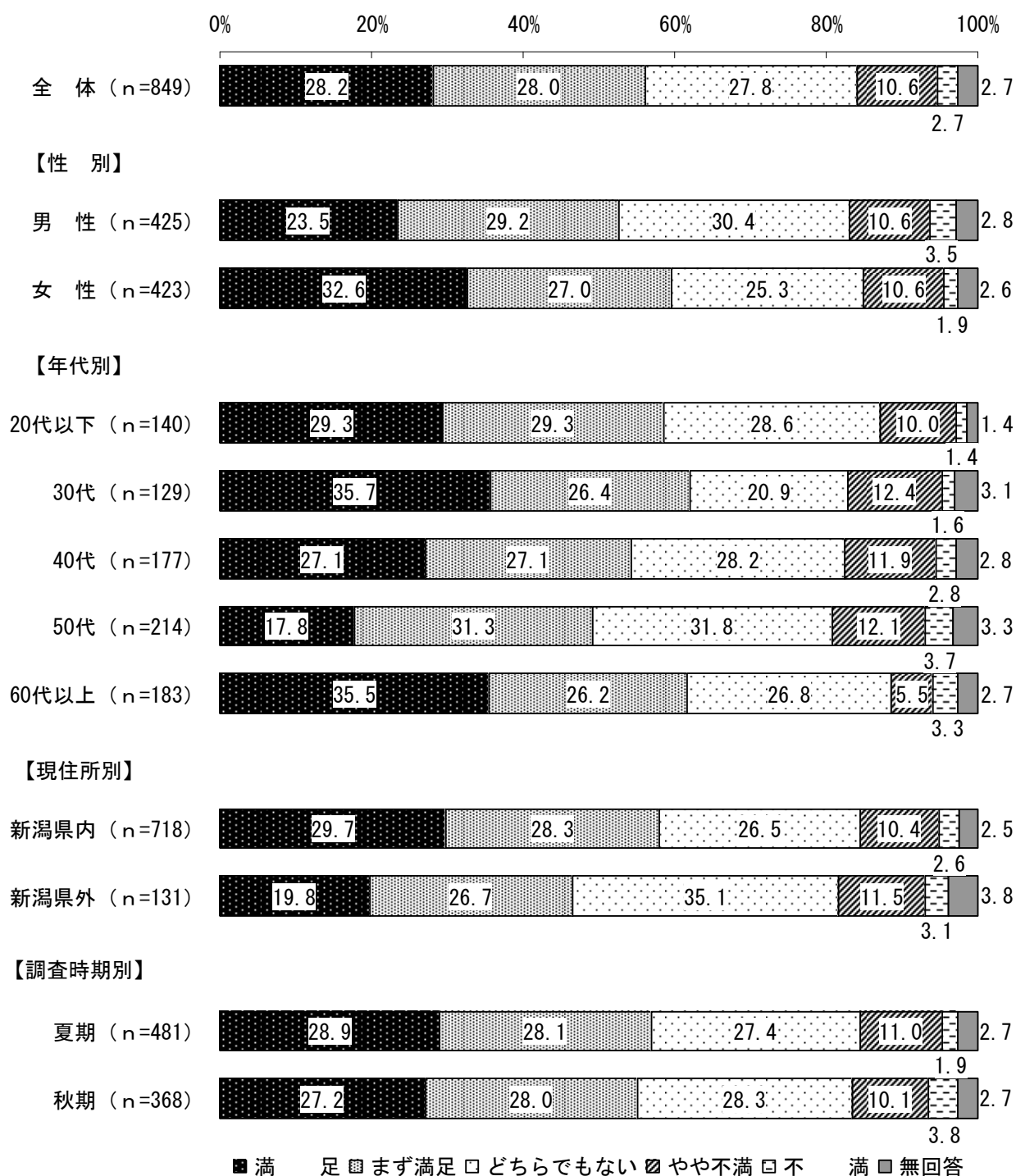
⑥ パスポート・チケット料金について（属性別）

パスポート・チケット料金についての感想を性別にみると、『女性』では『男性』に比べて、「満足」と「やや満足」の割合の合計が高くなっている。

年代別にみると、『40代』と『50代』では他の年代に比べて、「満足」と「やや満足」の割合の合計が低くなっている。

現住所別にみると、『新潟県内』の来場者では『新潟県外』に比べて、「満足」と「まず満足」の割合の合計が高くなっている（図表 22）。

【図表 22 本芸術祭鑑賞後の感想（パスポート・チケット料金について、属性別）】



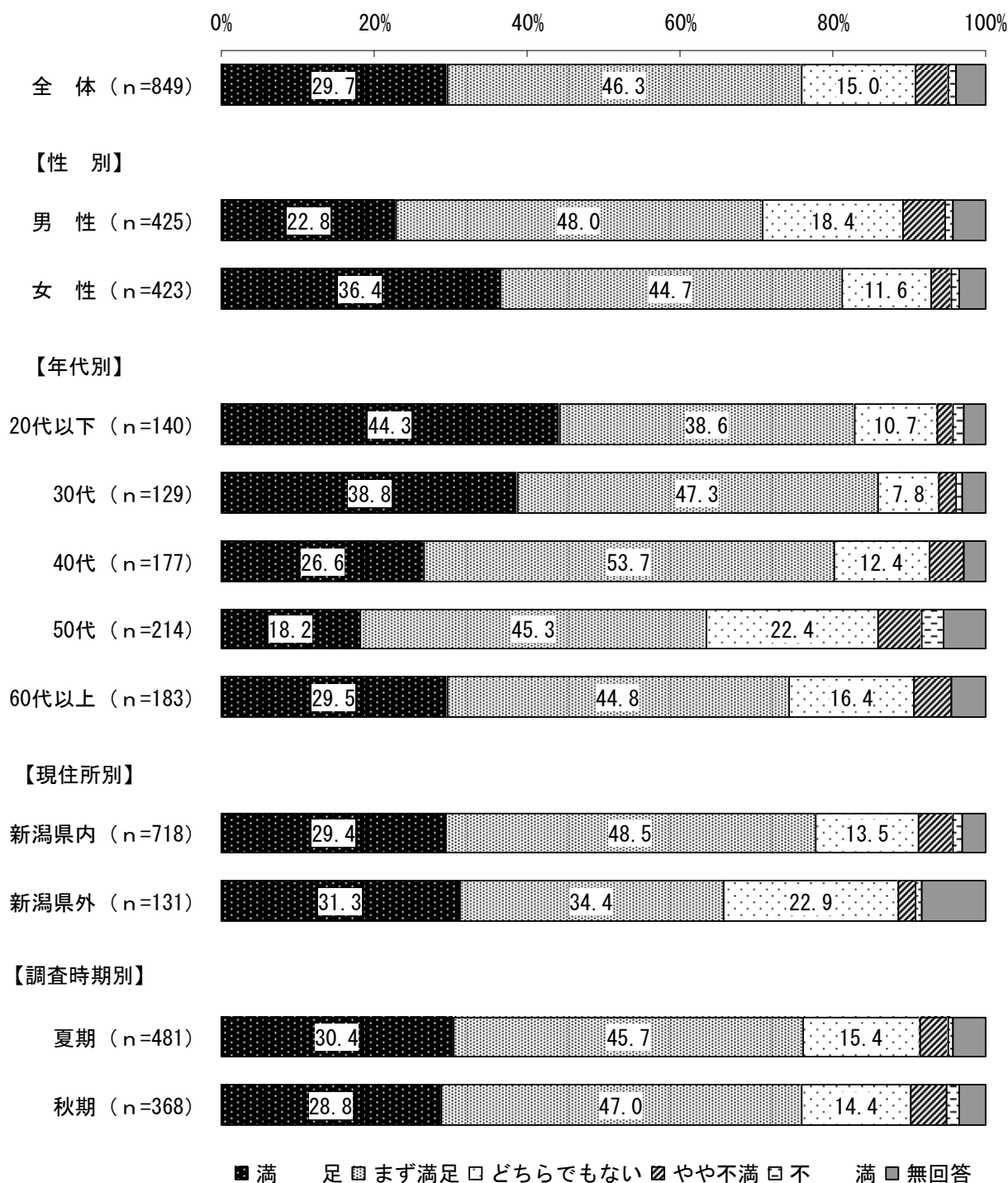
⑦ 全体を通じた感想について（属性別）

全体を通じた感想について性別にみると、『女性』では『男性』に比べて、「満足」と「やや満足」の割合の合計が高くなっている。

年代別にみると、『40代』以下の年代では『50代』以上に比べて、「満足」と「やや満足」の割合の合計が高くなっている。

現住所別にみると、『新潟県内』の来場者では『新潟県外』に比べて、「満足」と「まず満足」の割合の合計が高くなっている（図表 23）。

【図表 23 本芸術祭鑑賞後の感想（全体を通じた感想について、属性別）】



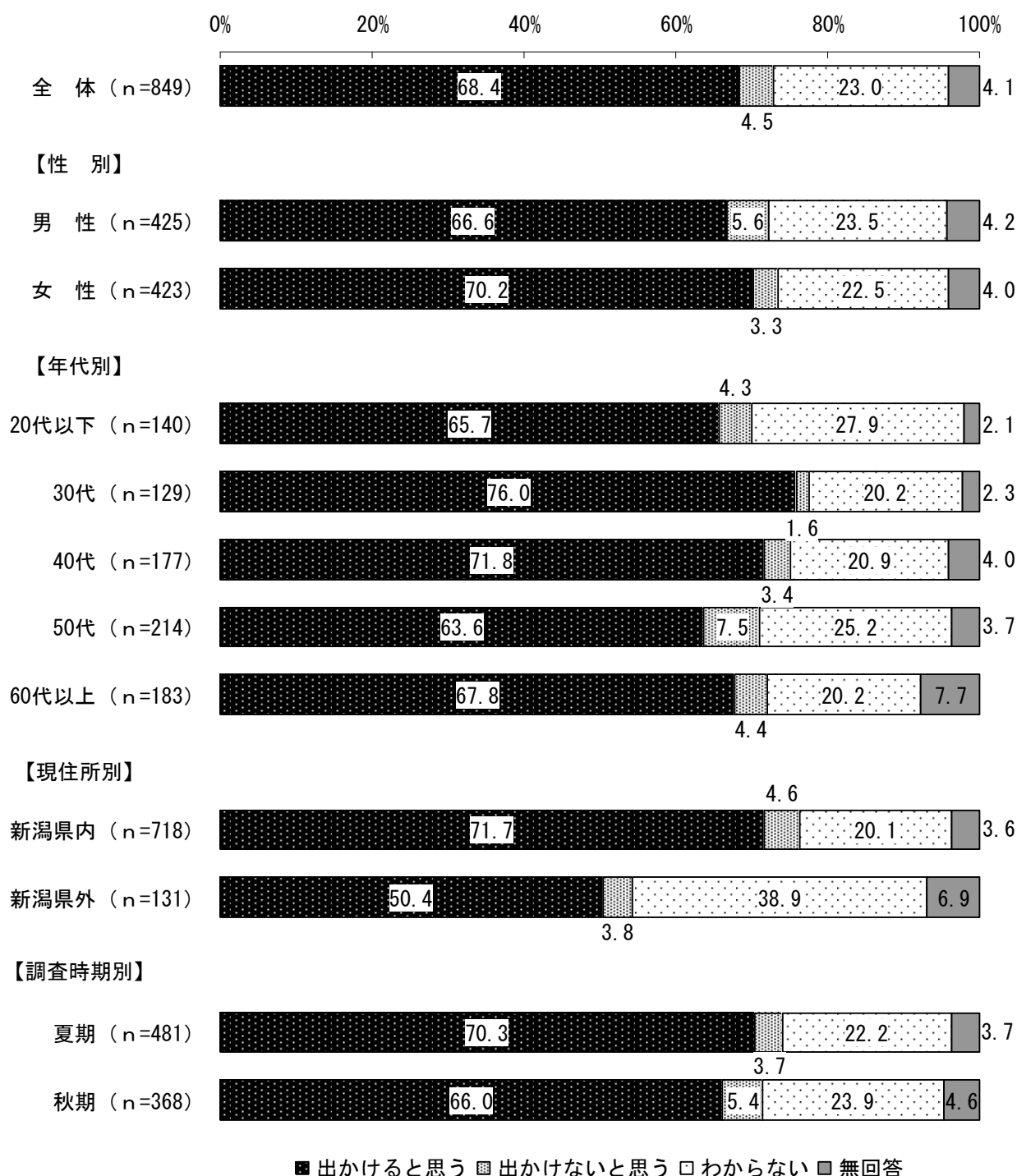
(10) 今後の開催時の来場意向

今後、本芸術祭が再度開催された場合の来場意向を尋ねたところ、「出かけると思う」(68.4%)が約7割を占めているのに対し、「出かけないと思う」(4.5%)は1割にも満たない。

年代別にみると、『30代』では他の年代に比べて、「出かけると思う」の割合が高くなっている。

現住所別にみると、『新潟県内』の来場者では『新潟県外』に比べて、「出かけると思う」の割合が高くなっている(図表24)。

【図表24 今後の開催時の来場意向】



(11) 本芸術祭に対する意見・要望等

本芸術祭に対する意見・要望等を自由回答形式で尋ねたところ、夏期・秋期調査とも個別作品や芸術祭自体を称賛した感想や、本芸術祭の開催趣旨にかなった意見、感想がみられた。

その一方で、会場や会期の設定についての要望や、PR不足を指摘する意見、会場までの案内表示のわかりにくさ、ガイドマップの見にくさなど運営に関する意見や感想もみられた。

【芸術祭全般について】

- 秋にもまた来たい。この芸術祭の企画が素晴らしい。
- この種の企画は、ぜひ続けてほしい。
- 芸術が好きなので、このような催しがたくさんあれば良い。
- 芸術を知らない人でも楽しめる内容が多くて良かった。
- 初めはつまらなかったが、回数を重ねるとだんだん欲が出てきて、どんどん楽しくなってきた。
- 初めてのわりに良かったと思う。
- 地元のことを、改めて知ることが出来て良かった。続けていくことで、市民の理解・支持が深まっていくと思う。
- 大地の芸術祭には行けなかったが、市内で同様のものを見ることができて良かった。
- たいへん楽しめた。もっとPRして、たくさんの人に鑑賞してもらえると良い。子どもたちの視野を広げてくれるものだと思う。
- 今後も続けていただけると、楽しみが増える。
- コンセプトがわからない。
- お金をかけるのはよいが、コンスタントに常設会場の内容を充実させてほしい。文化・芸術活動を充実させることが都市の魅力につながる。

【会場・会期の設定について】

- 色々な所を巡って素晴らしい作品を見るのは楽しい。
- エリアは広いが、お勧めコースを載せたチラシが参考になる。
- 新潟市も広くなり、一体感があって良かった。
- 出来れば、1か所に作品をもっと集中してほしい（5個位）。せっかく来ても1会場に2～3点だけだとつまらない。苦勞して行っても作品が1点だけではつまらない。
- 場所ごとの具体性がほしい。どこへ行ってよいか分からない。
- 会場が散らばりすぎていて、分かりづらいと思う。
- 市内に住んでいないので、なかなか時間がとれない。出来れば、1か所にもう少し集中して作品を置いて欲しい。
- 地域が広すぎてまわりきれない。
- 期間がはっきりとわからない。期間が長すぎるのもどうかと思う。
- 大地の芸術祭とダブらなければよかった。

【運営方法について】

- 地元の方々の協力のもと、素晴らしい展示会だったと思う。
- スタンプラリー形式は良いと思う。
- スタンプの場所がわかりづらかった。
- 迎える態度がなっていない。新潟駅に案内係を置くべきであるし、パンフレットも分かりやすく置いてほしい。わざわざ東京から来たが、がっかりした。大地の芸術祭では、第一に駅での出迎えが良かった。
- 全体を通じてどのように回ればよいか、モデル案内が早いうちであれば良かった。
- どこに何があるかわからない。
- 一般の人が参加して作り上げる作品が多かったのが面白いと思った。
- 「市民参加型」をもっと広めていくべきではないか。
- 準備中の会場があるのは良くないので、準備が整ってから始めた方がよい。会場がまばらなのが困る。

○作品の解説本が出るのが遅い。

**【展示作品について】**

- 作品は素晴らしいものが多く、実際に体感することで感動も大きい。
- 初めて来たが、面白いアートがたくさんあり楽しかった。
- 新潟にまつわる展示物が多く、芸術作品としてだけではなく、新潟を知る、歴史を勉強する良いきっかけになった。
- 作品の説明文がほしい。イメージだけでも説明文があると良い。
- 展示物が前衛過ぎて理解出来ないものがあった。
- 一般にも分かりやすいものを展示してほしい。
- 内容はひどい。パスポートを買ったのに不満だ。
- ぐるぐる回って探した割には、アート作品に感動が無かった。探し歩いた先に、「やった！」という感動する作品があれば良かった。
- 子どもにも楽しめる作品があると良い。

**【PRについて】**

- 関東などでのPRをもっとしてほしい。
- 新潟では、宣伝やポスターなどでPRをしていたようであるが、県外にいると情報が無いのでもう少しPRしてもらいたい。
- 早い段階からPRしていれば良かった。急ごしらえの感じがした。
- 他県からも、もっと見に来てくれるようなPRや、子どもの意見を聞いてみてはどうか？
- 来てみたいと思わせるようPRしてほしい。

**【会場までの案内表示、マップ等について】**

- のぼりが作品のぎりぎりまで出てこず、探すのが大変だった。
- 地図を見て、番号の作品を見に行ったが、現地に着いてもどれが作品なのかわからなかった。
- 案内表示は、大きく分かりやすいと良い。
- 町の中はいいが、田舎の方へ行くと、案内が分かりづらい。
- 道案内が良くない。「大地の芸術祭」を参考にしてほしい。ナビがなくても行けるようにしてほしい。
- 県外から来たが、地図がおおざっぱでわかりづらい。
- 地元でも分からない場所があるので、詳しい地図があったら良いと思う。
- 食事処マップや駐車場マップがあるとよい。
- 100円のマップはパスポートにつけるべき。

**【パスポート、チケットについて】**

- パスポートの値段が高い。パスポートなのだから、同じ所に何度行ってもみられるようにしてほしい。
- パスポートとガイドブックが別売りなのはおかしい。
- パスポートの種類に美術館用、特設会場用、美術館・特設会場両方などがあるとよい。
- 有料会場のチケット代をもっと安くしてほしい。
- パスポートに付いている優待クーポンは食事でも使えるらしいが、どこで使えるのか分からない。

**【交通について】**

- 駐車場が会場から離れている。
- 車をどこに停めたらよいか分かりにくい。行きたい所はいろいろあるが、あきらめている。
- バスツアーに申し込んだが、定員が一杯で駄目だった。土日は、もっと定員を増やしてもらいたい。

### 3. サポーターアンケート（新潟経済社会リサーチセンター実施）

#### （1）調査の実施概要

##### ① 調査対象

水と土の芸術祭実行委員会に登録している市民サポーター646名

##### ② 調査方法

郵送法

##### ③ 調査時期

平成21年11月上旬～下旬

##### ④ 回収状況

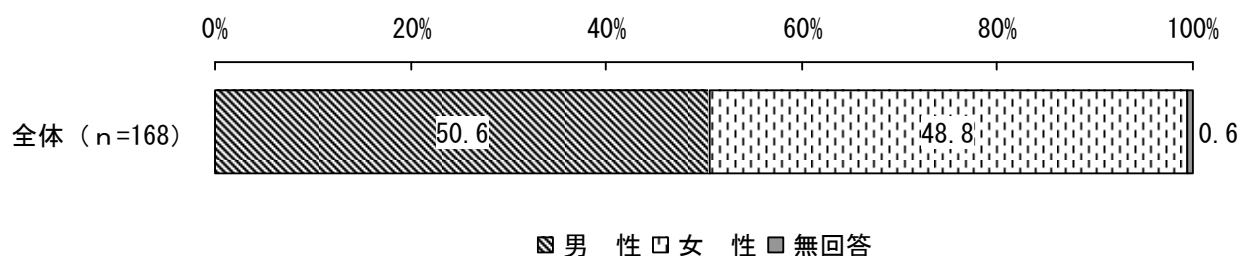
有効回答数：168通、有効回答率：26.0%

#### （2）回答者の属性

##### ① 性別

回答者の性別をみると、「男性」が50.6%、「女性」が48.8%となっている（図表1）。

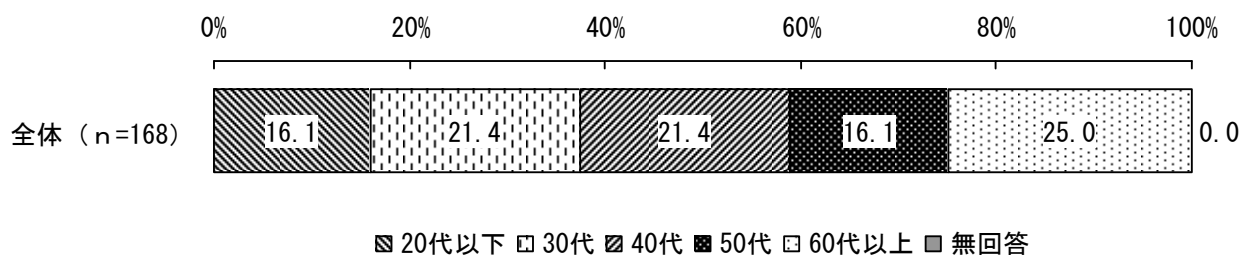
【図表1 回答者の性別】



##### ② 年代

回答者の年代をみると、「60代以上」が25.0%で最も高く、以下「30代」、「40代」がともに21.4%、「20代以下」、「50代」がともに16.1%の順となっている（図表2）。

【図表2 回答者の年代】

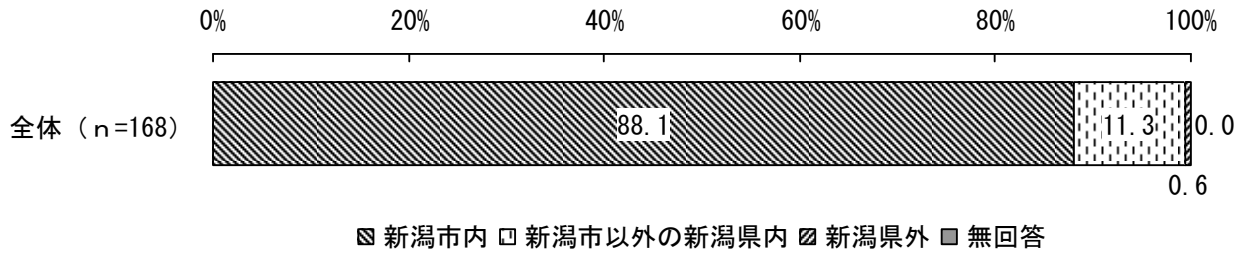


③ 現住所

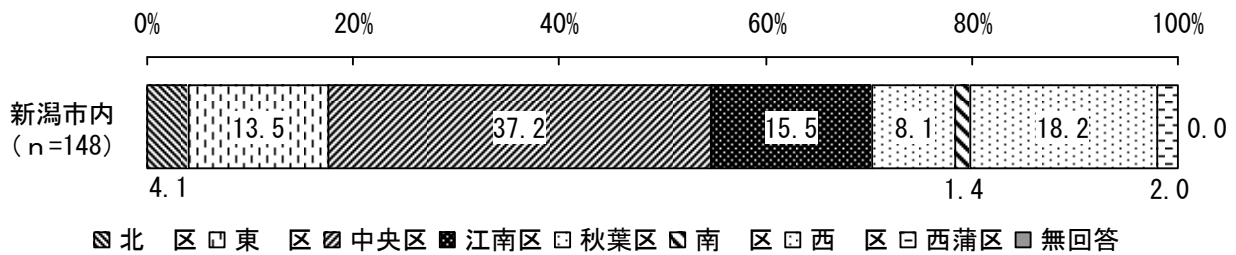
回答者の現住所をみると、「新潟市内」が88.1%、「新潟市以外の新潟県内」は11.3%、「新潟県外」は0.6%となっている（図表3）。

「新潟市内」の回答者の現住所を区別にみると、「中央区」が37.2%で最も高く、以下「西区」（18.2%）、「江南区」（15.5%）、「東区」（13.5%）などの順となっている（図表4）。

【図表3 回答者の現住所】



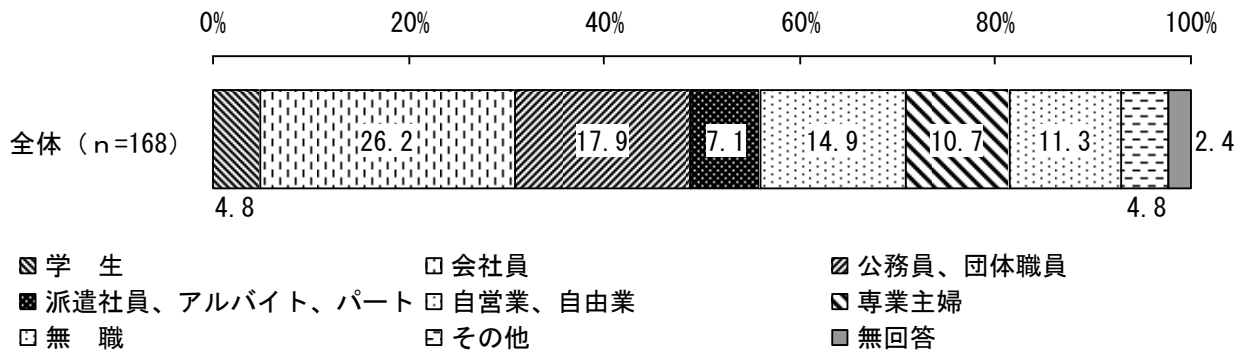
【図表4 新潟市内の回答者の現住所】



④ 職業

回答者の職業をみると、「会社員」が26.2%で最も高く、以下「公務員、団体職員」（17.9%）、「自営業、自由業」（14.9%）、「無職」（11.3%）などの順となっている（図表5）。

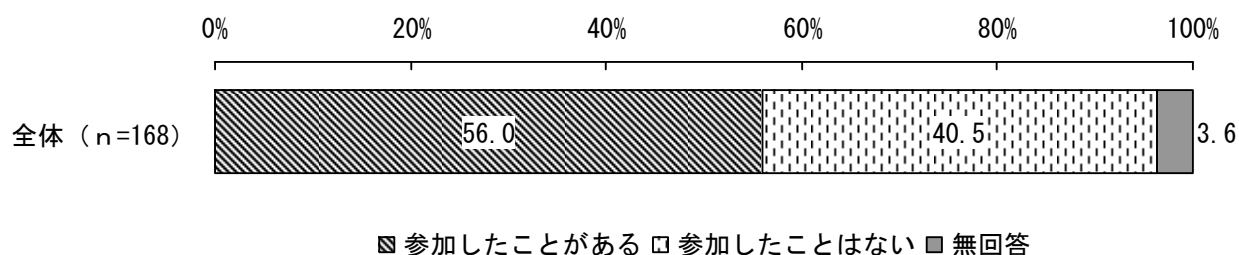
【図表5 回答者の職業】



(3) ボランティア活動への参加経験の有無

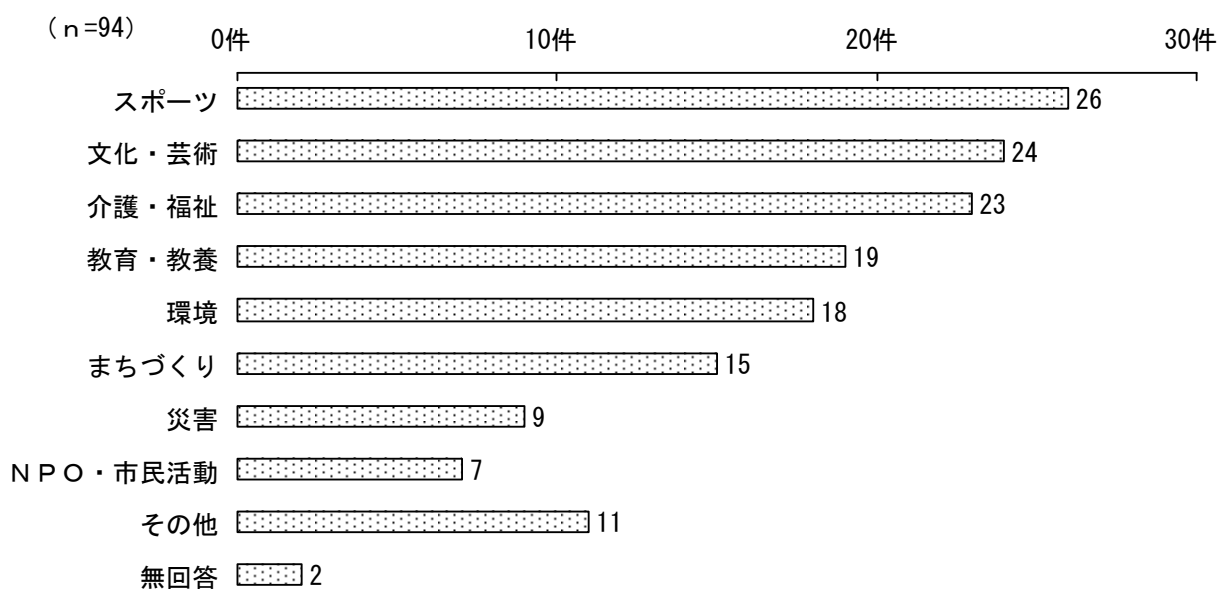
これまでのボランティア活動で、本芸術祭の市民サポーター以外の参加経験の有無を尋ねたところ、「参加したことがある」が56.0%、「参加したことはない」が40.5%となっている（図表6）。

【図表6 ボランティア活動への参加経験の有無】



「参加したことがある」と回答した人に、その具体的な内容を自由回答形式で尋ねたところ、「スポーツイベント」(26件)、「文化・芸術」(24件)、「介護・福祉」(23件)に関するものが上位3位を占めており、次いで「教育・教養」(19件)、「環境」(18件)などが続いている（図表7）。

【図表7 過去に参加したボランティア活動の内容（複数回答）】



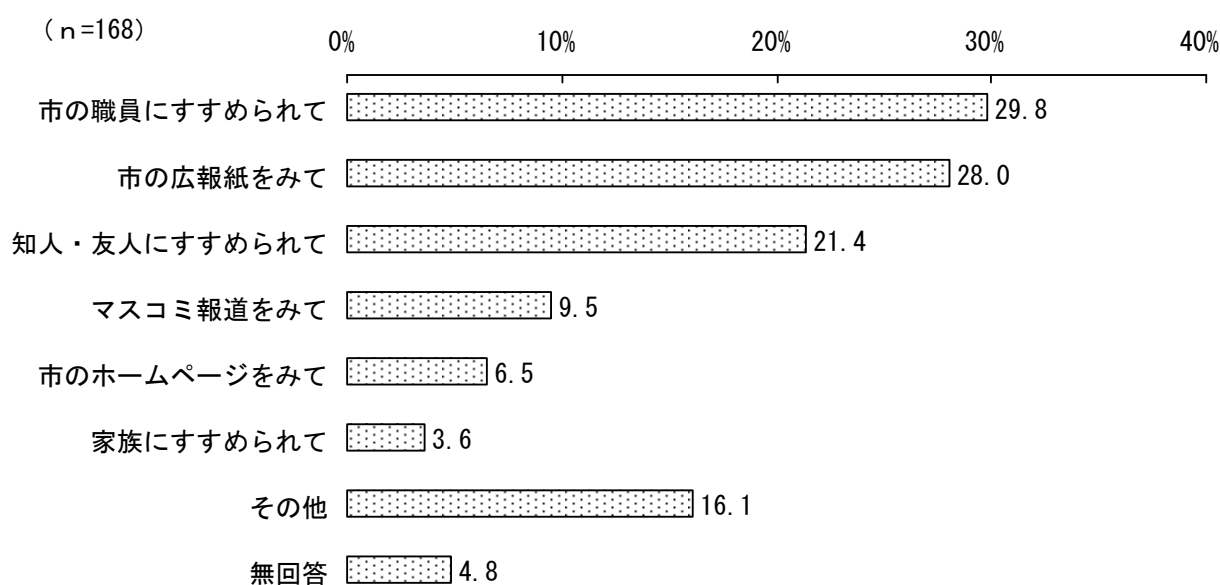


(4) 市民サポーターに登録したきっかけ

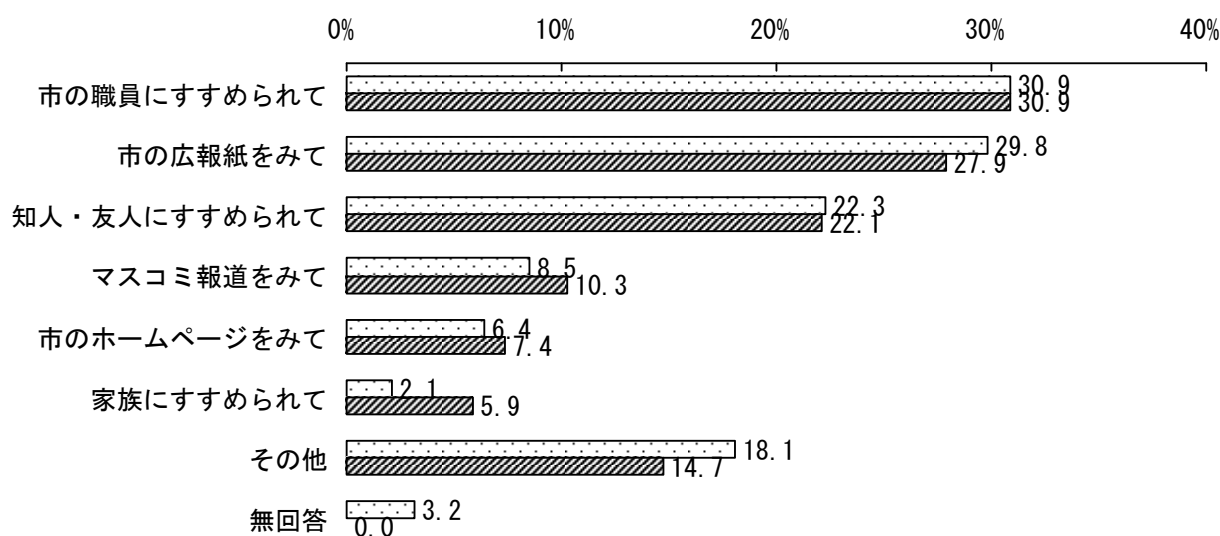
市民サポーターに登録したきっかけ（複数回答）を尋ねたところ、「市の職員にすすめられて」が29.8%で最も高く、以下「市の広報紙をみて」(28.0%)、「知人・友人にすすめられて」(21.4%)などとなっている（図表8）。

ボランティアの参加経験別（以下、参加経験別）にみても、あまり大きな差はみられない（図表9）。

【図表8 市民サポーターに登録したきっかけ（複数回答）】



【図表9 市民サポーターに登録したきっかけ（複数回答、参加経験別）】



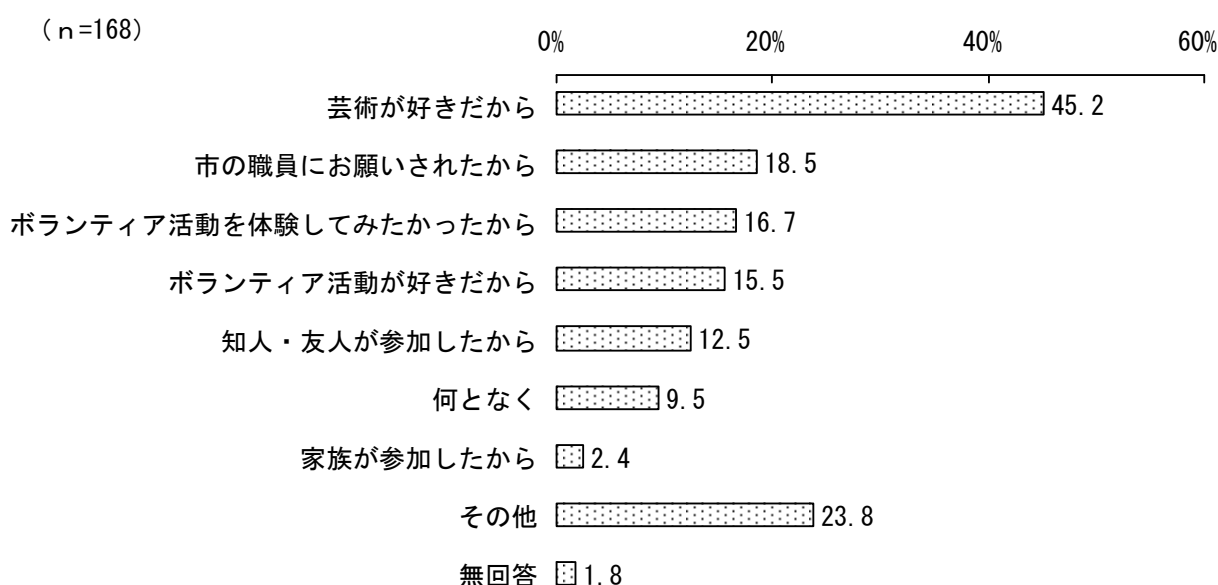
□ 経験者 (n=94)    ▨ 未経験者 (n=68)

(5) 市民サポーターに登録した理由

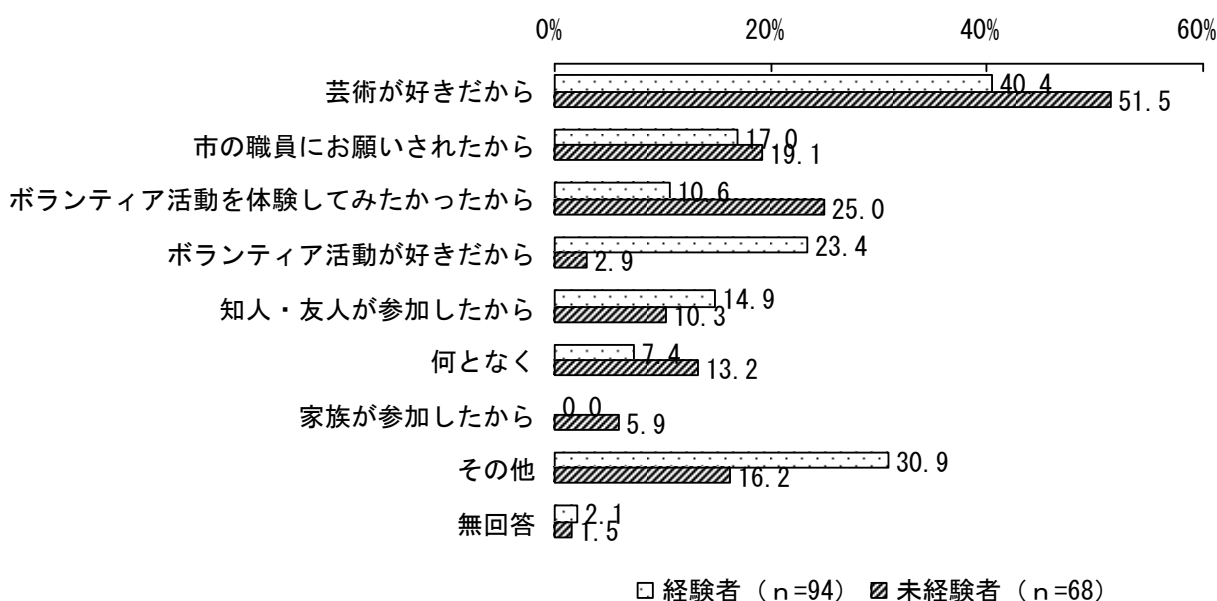
市民サポーターに登録した理由（複数回答）を尋ねたところ、「芸術が好きだから」が45.2%で最も高く、以下「市の職員にお願いされたから」（18.5%）、「ボランティア活動を体験してみたかったから」（16.7%）などとなっている（図表10）。

参加経験別にみると、『未経験者』では『経験者』に比べて、「芸術が好きだから」や「ボランティア活動を体験してみたかったから」の割合が高くなっている。一方、『経験者』では『未経験者』に比べて、「ボランティア活動が好きだから」や「その他」の割合が高くなっている。「その他」の内容としては、「新潟が好きだから」、「何か役に立ちたかったから」、「友人が増えるから」などが挙げられている（図表11）。

【図表10 市民サポーターに登録した理由（複数回答）】



【図表11 市民サポーターに登録した理由（複数回答、参加経験別）】



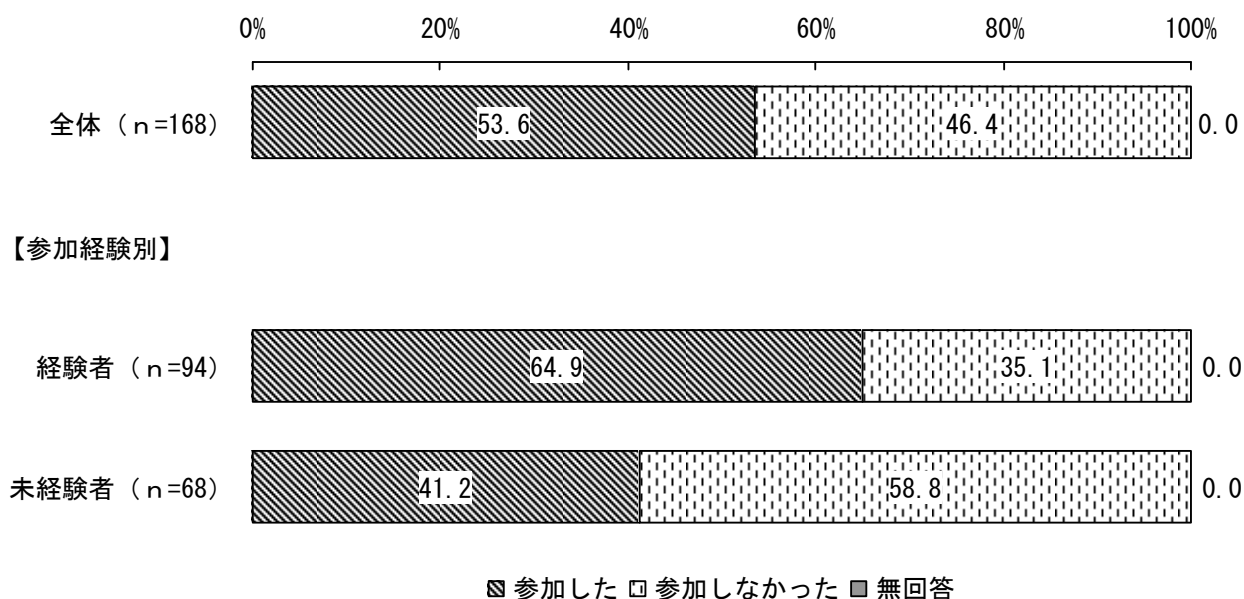
(6) 市民サポーターとしての参加状況

①参加の有無

市民サポーターとして本芸術祭のボランティア活動への実際の参加状況を尋ねたところ、「参加した」が53.6%、「参加しなかった」が46.4%となっている。

参加経験別にみると、『経験者』では「参加した」とする割合が64.9%であるのに対し、『未経験者』では41.2%にとどまっており、『未経験者』の約6割が「参加しなかった」としている(図表12)。

【図表12 市民サポーターとしての参加状況】

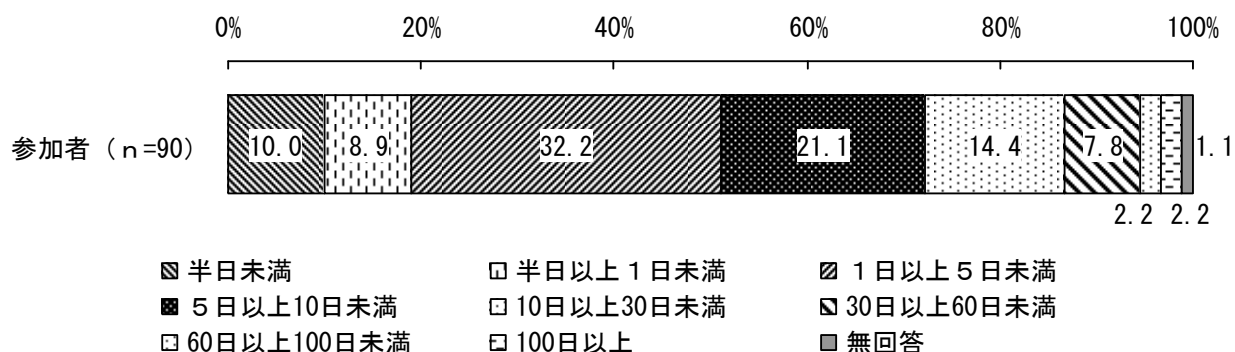


②参加日数

『参加した』(以下、参加者)と回答した人に対し、実際のボランティア活動に従事した日数を尋ねたところ、「1日以上5日未満」の割合が32.2%で最も高く、次いで「5日以上10日未満」(21.1%)となっている。

また、「半日未満」から「5日以上10日未満」までを合計した「10日未満」の割合が72.2%と約7割を占めている(図表13)。

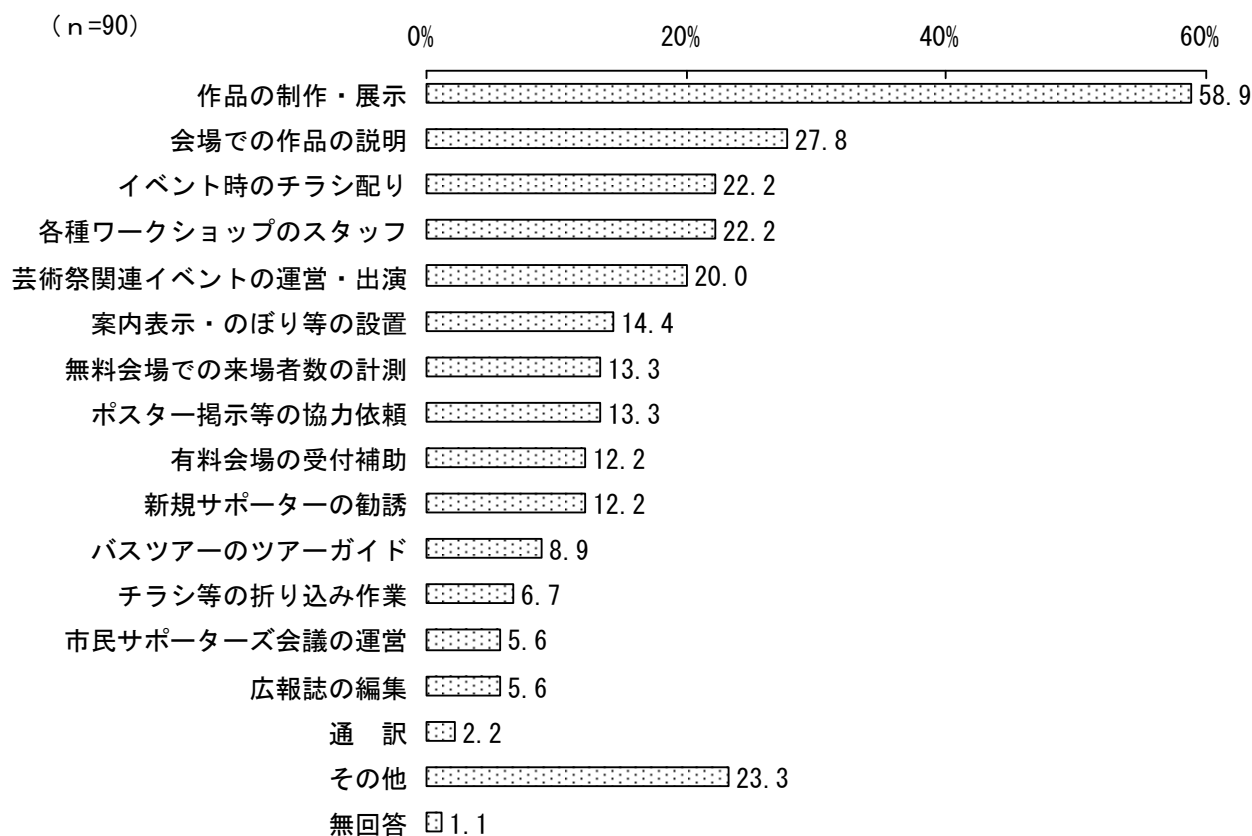
【図表13 実際のボランティア活動に従事した日数】



③参加したボランティア活動の内容

『参加者』に対し、参加したボランティア活動の内容（複数回答）を尋ねたところ、「作品の制作・展示」の割合が 58.9%で最も高く、以下「会場での作品の説明」（27.8%）、「イベント時のチラシ配り」（22.2%）、「各種ワークショップのスタッフ」（22.2%）、「芸術祭関連イベントの運営・出演」（20.0%）などの順となっている（図表 14）。

【図表 14 参加したボランティア活動の内容（複数回答）】

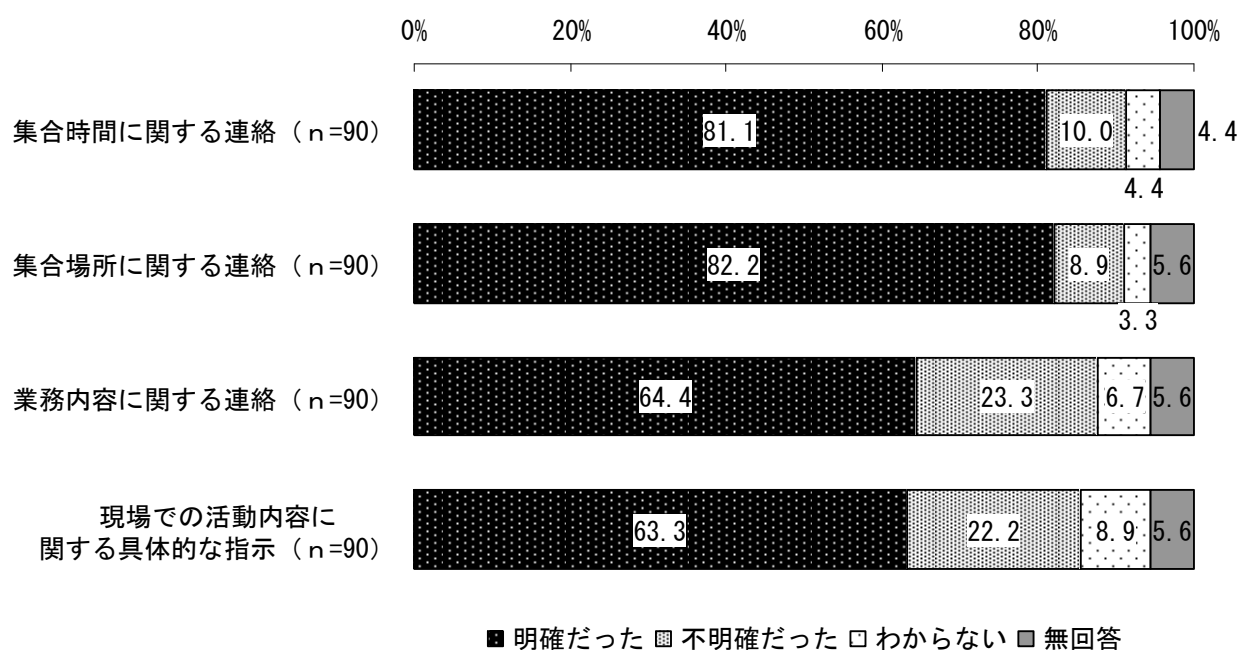


④ボランティア活動参加に際しての連絡・指示に対する感想

『参加者』に対し、ボランティア活動に参加する際の連絡や指示に対する感想を尋ねたところ、『集合時間に関する連絡』と『集合場所に関する連絡』については、「明確だった」とする割合がともに8割程度となっている。

一方、『業務内容に関する連絡』と『現場での活動内容に関する具体的な指示』については、「明確だった」とする割合がそれぞれ6割程度であるのに対し、「不明確だった」とする割合がともに2割超となっている（図表15）。

【図表15 ボランティア活動参加に際しての連絡・指示に対する感想】



⑤参加しなかった理由

「参加しなかった」（以下、不参加者）と回答した人に、その具体的な理由を自由回答形式で尋ねたところ、「仕事が忙しく日程が合わなかった」とする日程上の問題に関するものが圧倒的に多くなっているが、「役割分担がはっきりせず、気分が乗らなかった」、「ボランティア内容が理解できず、参加しにくかった」といった理由や「期待していたものと違った」といった理由などが挙げられている。

(7) ボランティア活動に参加した感想

『参加者』に対し、ボランティア活動に参加した感想について、自由回答形式で尋ねた。

参加して良かったこととして、新たな人的交流が生まれたとする内容が多数挙げられている。その他には、自己実現・自己啓発の場になったとする内容や社会に貢献することができたとする内容、新潟市への郷土愛を深めたとする内容などが挙げられている。

一方、実際のボランティア活動にあまり参加できなかったことなど自分自身の反省点を挙げる内容がいくつかみられた一方で、芸術祭のPR不足や市民の参加の少なさ、作業時の指示の不明確さ、実動ボランティアの固定化などの芸術祭の運営上の課題等を指摘する内容もみられた。

**【人的交流に関するもの】**

- 作品制作に携わり、アーティストと出会えたことはもちろんのこと、一緒に作品を作ったサポーターや、作品の完成を楽しみにしている市民との交流・出会いが非常に嬉しかった。
- 新潟市は比較的県内では都会で、他人との交流があまりないと思っていた。参加して人の優しさ、温かさ、団結力が感じられた。
- 新潟の街を良くしたい、楽しくしたい、何とかしたいと思う人々が数多くいる事を知った。
- 色々な人と関わることが出来たほか、普段生活している中では経験できない事を体験する事が出来た。
- 市役所、区役所、各区で地域活動をされている方々と親しくなれた。

**【自己実現・自己啓発に関するもの】**

- 芸術祭というイベントを自分のものとして感じられた。
- 多くの芸術作品を体感できた。特に作家の方々から話を聞き、その思いを知ることも、市民サポーターとして関わる喜びの1つだった。
- 自分の中で、新たな世界が広がった。
- 見る芸術の他に「参加する芸術」という分野を知った。

**【自分自身の反省点に関するもの】**

- もっと色々な活動に参加したかったが、自分のスケジュールと合わず残念だった。
- 車が無いので交通手段に困り、参加を諦めざるをえなかったのが残念。

**【芸術祭のPR不足に関するもの】**

- 芸術祭に対して一般市民の関心が薄い様に思われた。
- PRが少ないらしく、訪れるお客様が少なかった。
- 市民が芸術祭の事をよく知らない。

**【作業の際の指示に関するもの】**

- 指示命令を出す人が多過ぎる。
- もう少しボランティアの内容を明確にし、どこで、どのようにしたら良いかの指示が欲しい。
- ボランティア活動（市民サポーター）に期待する作業があまりに多く、それを采配する事務方のマンパワーが足りなさ過ぎた。多くのボランティアを動かす以上、事務スタッフも同等程度マンパワーが必要で、事前のシミュレーション（養成）が不可欠。
- 活動当日になっても、スケジュールが決まっていない事が、何度かあった。

**【その他】**

- 新潟市の宝について広く知ることが出来た。
- 新潟の良さを再確認出来た。
- 作品を見に来た人や、バスツアーに参加された人などから、「ありがとう」や「楽しかった」など声を掛けてもらうことができ、達成感があった。
- 地域の魅力発信に貢献出来た。
- 一緒に作り上げている充実感があった。
- 市民サポーターが「いつもあの人たちね」という感じで広がらなかった。新しい人たちに参加させる工夫が必要。
- あまりボランティア同士が深く繋がる事が出来なかった。ボランティア活動のみで、芸術祭が終わったら解散してしまうのは勿体ないと思う。
- ボランティアにしては作業がきつかった。
- ボランティア活動に無報酬ということについて疑問があった。
- 各会場の受付をはじめ、市の業務として勤務している人がほとんどで、ボランティアとして勧誘した人（有償・無償）とのギャップに失望した。
- 芸術祭開催日になっても、作品が出来ない作家が多くいた。
- 作品がたいしたことなく、期待はずれだった。
- 市民参加が大地の芸術祭より少なかった。
- もっと新潟市民に協力・参加してほしかった。

また、上記の感想と合わせて、ボランティア活動参加後の自分自身の意識や行動の変化と、今回のボランティア活動を通じてできた新たな仲間やネットワークの今後の活かし方についても自由回答形式で尋ねた。

自身の意識や行動の変化については、「変化なし」とする人はごく少数で、地域への関心やまちづくりに対する意識が高まったとする自己啓発に関する内容や、行動力が増したとする内容、郷土愛が増したとする内容が多くなっている。

今回のボランティア活動を通じてできた新たな仲間やネットワークの今後の活かし方については、具体的な内容にまで踏み込んだ回答は少なく、一部にはネットワークの形成にまで至らなかったとする回答もみられる。

**【ボランティア活動参加後の自分自身の意識や行動の変化】**

**【自己啓発に関するもの】**

- 以前はなかった美術に対する関心が生まれた。
- まちづくりや芸術、ボランティアなど様々なことに対しての理解を前よりも深める事が出来た。
- ボランティア精神が、より何かの役に立つ事が確認できた。
- 観光についての勉強（地域を知る勉強）をもっと強めたいと思った。
- 芸術を通じたまちづくりに対する意識が高まった。

**【行動力に関するもの】**

- 積極的に行動すると、周囲の反応も積極的に返ってくるのが分かったので、今後も物事に積極的に取り組んでいきたい。
- 積極的に自主的になった。人と関わるのが好きになった。笑顔と挨拶の大切さに改めて気付いた。

○初めてボランティア活動に参加したが、ボランティアがいなければ大変であることがわかった。これからは、他の全く違う事でも、私に出来る事があれば、やってみたいと思った。

【郷土愛に関するもの】

- 新潟市の新たな魅力に出会えたことで、多くの人に新潟を知って欲しいとの思いが強くなった。今まで自信を持って新潟の良さを伝える事ができずにいたが、多くの人に、この芸術祭、新潟市をアピールしたいと思う。
- 歴史・文化・伝統など勉強したことから、新潟市域への愛着が深まった。新潟市を大切に思う気持ちと郷土に対する誇りが強まった。
- 新潟の知らなかった風景や歴史を知ることができ、新潟の可能性、やるべき事が少し見えた気がする。

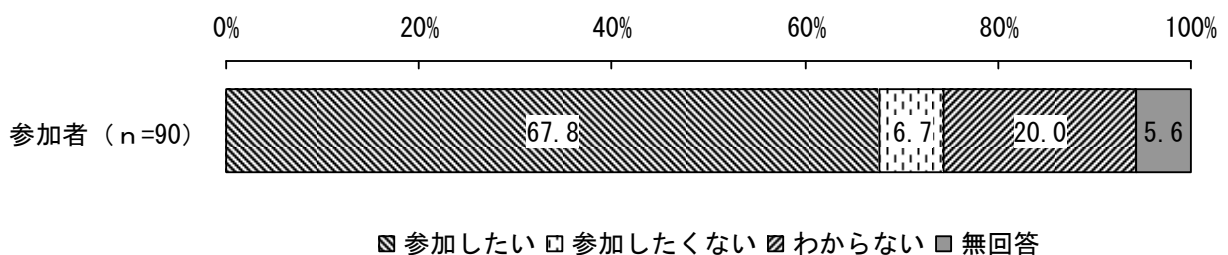
【新たな仲間やネットワークの今後の活かし方】

- 今後の自分の市民活動にネットワークを活かしていきたい。
- 第2回、第3回と芸術祭が続いていくように、サポーターの友人・知人と活動を続けていきたい。
- 新潟市の観光行政に寄与するボランティア組織を作り、勉強会を続けた上で、企画や提言などが出来るようになれば良いと思う。

(8) 市民サポーターへの今後の参加意向

『参加者』に対し、今後「水と土の芸術祭」が開催された場合の市民サポーターへの参加意向を尋ねたところ、「参加したい」とする割合が67.8%、「参加したくない」が6.7%、「わからない」が20.0%となっている（図表16）。

【図表16 市民サポーターへの今後の参加意向】





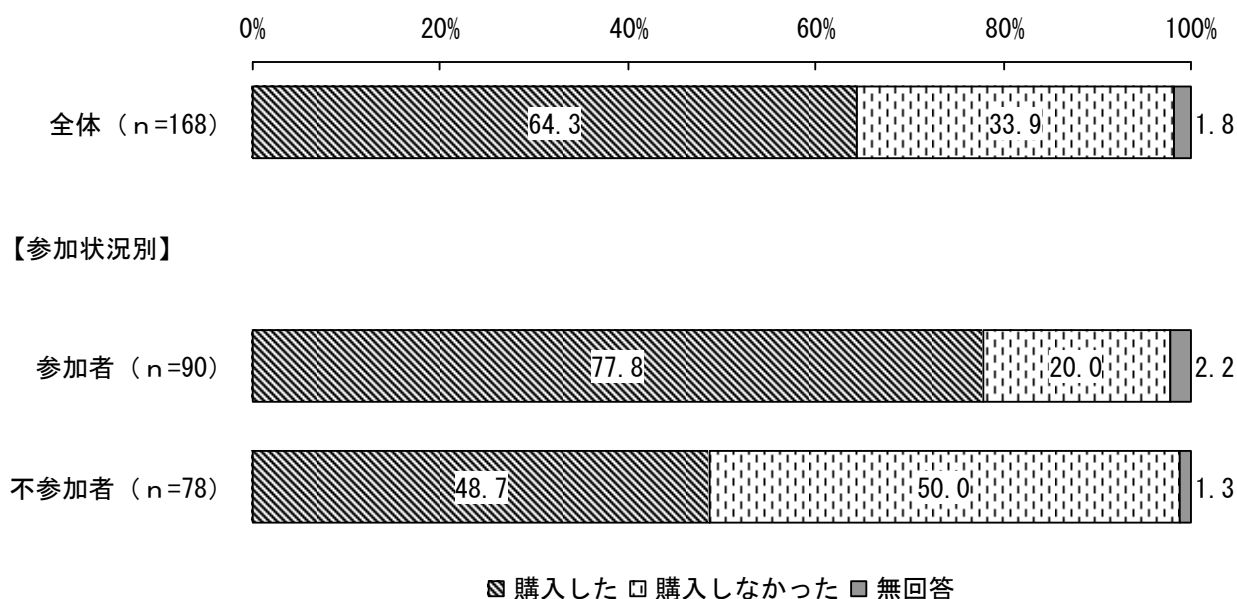
(9) 一市民としての本芸術祭への参加状況

①パスポートの購入状況

本芸術祭鑑賞に際してのパスポートの購入状況を尋ねたところ、「購入した」とする割合が64.3%、「購入しなかった」が33.9%となっている。

市民サポーターとしての実際のボランティア活動への参加状況別にみると、『参加者』では「購入した」とする割合が8割弱と高くなっているのに対し、『不参加者』では約5割にとどまっている（図表17）。

【図表17 パスポートの購入状況】



②全会期中に訪れた会場数

全会期中に訪れた会場数を尋ねたところ、訪れた有料会場数の平均値（回答のあった市民サポーター数の単純平均）は5.03会場、無料会場数の平均値（同）は12.63会場となった。

市民サポーターとしての実際のボランティア活動への参加状況別にみると、『参加者』では、有料会場数の平均値が5.83会場、無料会場数の平均値が14.96会場であるのに対し、『不参加者』では、有料会場数の平均値が3.86会場、無料会場数の平均値が9.59会場となっている。

③本芸術祭に対する感想・意見等

本芸術祭に対する一市民としての感想・意見等を自由回答形式で尋ねたところ、本芸術祭が開催されたことを称賛する感想や今後の継続開催を望む声がみられた。

その一方で、会期や会場の設定方法についての不満や、作品の物足りなさ、開催意図のわかりにくさなどについての感想や意見等も挙げられている。

### 【芸術祭全般について】

- 新潟を見直す良いきっかけになった。継続して開催してほしい。
- この芸術祭によって、新潟にもたらされる経済効果や社会効果がどのような形で表れてくるのか、正直分からないが、今までにない風が必ず新潟に吹く事を感じている。
- やってみなければ分からないし、やってみなければ変わらないと思う。色々あってもやって良かったと思う。
- 今まで知らなかった新潟市の景色、行った事のない新潟市を知る事が出来た。一緒に回った家族とも、その場所ごとに素敵な思い出が出来た。
- 大地の芸術祭のように、何回かやれば前にやったことが財産になってくると思う。
- 制作者の意図がなかなか伝わらない。
- 芸術祭の意図が不明。
- なぜ「水と土」なのかが、市民に十分に伝わっていないのでは？
- 全容が見えづらく、参加しようにも良く分からない。テーマ自体は非常に魅力があるが、もっと期間を限定して中身の濃いものにした方が良い。
- 結局、何をアピールしたいのかが分からなかった。
- 展示場所をもっと丁寧に教える必要がある。「宝探し」的な面白さはあったが、皆さん大変苦労していたようである。
- 名前はよく聞くが、実際は何をしているか把握しにくいイベントだと思った。
- 創造的な取組にはマニュアルがないので、大変なことが多く、それを楽しめる、または受容できるようでない関わった人は辛いだろう。ただし、創造性をテーマにした「芸術祭」の意義は高い。

### 【会期や会場の設定について】

- 期間が長すぎて、行くタイミングを逆に逃してしまう。アートの「放ったらかし感」がどこか悲愴感・失敗した感を誘い、足が遠のいてしまう。
- 作品の場所が分かりづらい。交通手段は？観る以前の問題である。
- 有料・無料会場を改めて知った。この2つに分けて案内を作成し、学生や気軽に見たい人たちにも親しんでもらうようにしたらどうか。
- 会場がバラバラで場所が不明。
- 作品の場所が分かりにくい所にある。鑑賞バスツアーは土日祝日のみで、平日も運行してほしかった。期間が長すぎる。市美術館・歴史博物館等は期間が限定されていて、いつでもというわけにいかず不便だった。

### 【作品について】

- 芸術祭の期間に限らず、常設して欲しい作品が多い。
- 王文志さんの竹の作品は、やすらぎ堤に凄くマッチしていた。どれを見ても個性があり、良かったと思う。
- 期間・展示場所をもっと絞り、楽しく手軽に見られるようにした方が良い。1つ1つが離れており、満足度が低い。集中していれば、それなりに楽しめると思う。
- 全作品の3分の2は感動しない作品であった。なぜなら、他の地域で見たものばかりだった（ほぼ同じものもある）。
- あまりにも各地に散らばり過ぎていたほか、作品を絞りこんだ方が良かった。メモリアル的に残せる作品が少なかった。
- 全体の3割位は芸術と思えたが、7割位は「？」と思う物だった。数を減らしても良いので、完成度の高い作品のみにしてほしかった。
- その地域の成り立ちとの関係が不明な作品。
- 個々の作品がどのようなものか、ホームページやパンフレットでは分かりにくい。実際に見て、イメージ以上に感動するものもあれば、正直がっかりするものもあった。アート作品はそのようなものかもしれないが、一般市民は事前にどのような作品なのか分からなければ、興味を持って見には行かないと思う。

**【その他】**

- 一部の芸術家などに多額の費用を投入し、地元の中小企業や団体にはほとんど還元されなかったように思われ、経済効果は無かったと思う。
- 一部の方々が盛り上がっている印象を受けた。経済効果を感じない。
- 点数を付ければ30点。県外からの見学者は少ないし、市民もそれ程関心がなかった。
- とても素晴らしい内容だったが、その良さが市民に伝わっていない。

## 4. 地域・サポーター等への聞き取り調査

地域で芸術祭に関わった方やサポーター、アーティスト、交通関係者等80人に聞き取り調査を平成22年の1月と2月に実施した。

伺った意見をよかった点と悪かった点、今後についての3つに分けると下記のとおりである。

なお、聞き取り調査の意見は「水と土の芸術祭記録集」に掲載している。

### よかった点

#### ●地域

- ・観光客に声掛けしての「おもてなし」は喜ばれ、多少の売上げにも貢献がありました。
- ・大変であったが、感謝の気持ちでいっぱい。神楽団体の交流するきっかけになった。
- ・各地域のキーマン・市区の職員が立場を超えて集まり、作品づくりの協働作業から「人と人のつながり」とネットワークが生まれた。
- ・新潟市はアートとか文化的なものが少ない印象があります。それに一石を投じたのではないのでしょうか。
- ・棧俵神楽（さんばいしかぐら）を大勢の人に見てもらって良かった。
- ・直売所は常連さんが多いが、このイベントを通して新しいお客様も増えた。
- ・9月から毎週末、夫と子どもと一緒にまわり、ほとんどの作品を見ることができました。美術館に連れて行くには早いので、触ることのできる作品もあってよかったです。
- ・パスポートを購入したので、普段はなじみのない美術館などにも入れ、いい機会になりました。プレイベントの展示会の1ヵ月間は、白根絞りを広く紹介する良い機会になりました。
- ・今まで参加した新潟市芸術祭などのイベントと質が違い、スケールの大きさを感じた。
- ・私は、身体障害者一級であることをときどき忘れ、芸術祭のおかげで、普段は出かけない内野の新川や鳥屋野潟公園、新津などに連れていってもらい、感謝しています。
- ・新潟市には若いクリエイターがたくさんいて、知り合いになることができました。新潟市民は予想以上にアートに関心が深いと思います。
- ・空土（からっと）のメンバーが一生懸命な姿が印象的で、こっちも何とかしようと思った。
- ・伝統的なものを掘り起こして、継続していくことは芸術祭のようなものがなければ難しいと思った。
- ・今まで知らなかった亀田の歴史や先人の功績を知ることができた。
- ・台湾のニュースで親切な新潟市民や募金のことが伝えられた。芸術祭があったからこそ交流でき、輪が広がった。
- ・地域の方が協力してくれ「いままでこんなに人が来た事がなかった」と喜んでくれた。
- ・作家と材料運搬ボランティアで関わり、話して知らない世界が見えた。皆さん、とてもよい人だった。
- ・県外のお客様さんが来られて驚いた。
- ・眠っていた校舎が生き返り、住民の文化に対する関心が高まった。
- ・芸術祭の2年前から地域で町屋の学習をしていたが、3年目に芸術祭が開催され一気に加速した。

- ・「出番を与えられた」という感じでありがたかった。
- ・市の職員がパスポート販売を一生懸命やっていて、地域に語りかけていたので好感が持てた。
- ・作品自体は文句なく素晴らしかった。作家も気難しくなく自分の方から地域に飛び込んでくれた。
- ・福井集落の人は外交的でないが、こういう機会があって外と交流できたことがよかったと思う。
- ・よいものを作ってくれた。外から来た人が、福井がよいところだと話してくれた。
- ・川の立体交差サミットの開催が、他県の会の活動を活性化したことも印象深い。越後新川まるごと博物館では「丁寧な解説」と感謝され、会員の自信にもつながった。
- ・人を呼ぶために何かイベントをしなければと考え、「芸術祭」で活性化させてもらおうと思った。

### ●サポーター

- ・地域おこしの原点となるイベントであった。新潟が水と土と闘ってきた歴史を現代の人に伝える、よいきっかけになった。
- ・新潟の魅力に気付くことができるこの素晴らしいイベントに、多くの市民が参加しないのはもったいない。
- ・台湾の皆さんの一生懸命働く姿は本当に印象的でした。
- ・この芸術祭をきっかけに、新潟市民でよかったという自覚が生まれた。
- ・役所の一人ひとりがこんなに頑張っているのを見たのは初めてです。このような大きな仕掛けは民間では難しく、「まちづくり」としての市の仕掛けが必要だ。
- ・2009年は「還暦」を迎えた年です。記念に市民サポーター初体験にいどみました。
- ・まち歩きガイドやバスツアーガイド、この地域のことを楽しく伝えることができた。
- ・職場・住居は新潟市ではないが、大変だった印象はなく、とにかく楽しかった。

### ●アーティスト

- ・制作者として、土地を知り、地域との交渉事などのスキルが必要であり、結果的に人やモノ、情報が動くダイナミズムを生み出すことが肝要であることを肌で感じることができました。
- ・自分のルーツ新潟市で制作できたことは、大きな喜びでした。
- ・新潟市のサポートやたくさんのサポートや偶然が重なり、非常に制作がしやすかったと思います。
- ・新潟はある意味で内向的で、それは逆に強み。
- ・空、田んぼ、海、川、どこにでもある風景なのに、これほどスケールを感じる場所もないと思います。町と町をつなぐ広大な風景、そこには何もないからこそ、多様な自然や心を映すスクリーンのような働きがあるのではないのでしょうか。わたしはそうしたすべてを包み、受け止めてくれるような新潟の風景が好きでした。
- ・新潟市は、個性的で濃厚なカルチャーが静かに、そして確実に息づく町だ。
- ・初めて新潟を訪れた際は、萬代橋から見た信濃川には驚きました。まるで街が水面と一続きであるかのような感覚。新潟の水との関わりの記憶に触れ、一つの作品として昇華したい衝動に

駆られました。

- ・制作、展示を通して、多くの人に出会えたことが印象に残っています。
- ・長い会期が効果的だったように感じました。地域の名産を現場近所の方々からたくさんごちそうになりました。半年間、町の方々と少しずつ打ち解けていけた事も楽しかった思い出の一つです。
- ・「水と土」は作家や作品の質が非常に高く大きな刺激を受けた。
- ・私にとっては、生涯忘れられない芸術祭になり、この先も糧になって行くと思います。
- ・亀田本町商店街を選んだ。寂れているかと思ったが元気な人たちがいて、この人たちとならできると思った。

## ●その他

- ・期間中は芸術祭のパスポートを持ったお客さんがかなりみえられ、新しい客層も開拓できた。  
(博物館)
- ・新潟を案内するツアーを自らプロデュースした。24のツアーができ、一人しか参加しないものもあったし、60人集まったものもあった。(地域イベント主催)
- ・「駅からハイキング」イベントへの参加者は予想を大きく上回った。芸術祭+まちあるきで、一つパックがつくられたかな、思う。(JR)
- ・当初、土日、小型バスで運行したバスツアーは金土日月、大型バスに変更する人気となった。10人乗ればいいという予想をはるかに上回った。新潟市一周や値ごろ感と話題性、自由昼食などがよかったのだと思う。隠されたニーズを発見し、新しいコースづくりのきっかけができた。ツアー作成を検討するいい機会になった。(新潟交通)
- ・新潟市を訪れた12月18日は、記録的な大雪の日でした。しかし雪のおかげで、かえって印象深く思い出に残る旅になったように思います。昔ながらの商店街のたたずまいが心に残っています。(首都圏からの来客)

## 悪かった点

### ●地域

- ・地域とのコミュニケーションがとれないままスタートした。アートの関係でドタバタと動いたり、困惑したりしたものもあった。
- ・地域の盛り上がりの温度差や作品の出来不出来が生まれていた。
- ・一部の人しか作家と関係しなかったので、顔が見えない感じがした。
- ・コミュニティ協議会はパスポートをまとめ買いしたのですが、一般には知れ渡っていなかったと思います。
- ・もっと期待していた。買われる方の平均はワンコイン(500円)で、一番買った人でも2千円。
- ・もっと時間がほしかった。いきなり4億円をかけるは疑問。助成金は、日ごろできないことをやれてよい反面、プレッシャーでもあり、続けてやれないと思った。
- ・若い人が多く参加できる企画があったらよかった。
- ・事前に各団体と十分に協議し、それぞれの役割分担を決める必要があった。制作者も作品制作

前から地域とのコミュニケーションを持つことが必要だ。

- ・わざわざ見に行く価値を疑う作品といい作品の差が大きかった。
- ・「いつ、どこで、何をやっているのか」関係者は分かってても、一般のひとが知らなかった。
- ・「水と土の芸術祭」をクラスの友達にPRしたが、知らない人が多かった。
- ・新潟（地元）の作家をないがしろにした気がする。
- ・芸術祭のことはわかっているけど、知りたい情報がなかなか得られなかった。市民がメインなのか、はじめに作家ありきなのか、あやふやだった。
- ・アートのみが強調されて、自然科学的側面や郷土史的側面などが薄れていたように感じる。中枢部はもっと幅の広い構えが必要ではないか。友の会みんなが、アート偏重だったと思っている。
- ・宣伝が下手である。案内看板が少なく、目立たないため、どこへ行ったらいいのか分からない。今後は看板表示の充実、カーナビを活用した案内。携帯を利用した情報提供などを取り入れたらどうかと思う。又「もてなし」といった点では食を充実させる必要がある。
- ・宣伝がまずかったのか、周りの人が水土について「知らない」という声が大半でした。名称からは具体的な事柄が見えてこず、誰が何をしようかと思っていました。
- ・お客様から「重要文化財である笹川邸には、展示されているアートがそぐわない」とお叱りを受ける。

#### ●サポーター

- ・市民と一緒に作品を作り上げる作家さんとただ作ってハイ終わりという作家さんとのギャップがありすぎる。市役所職員もしかり、事務的にこなす人と、市民、サポーターとともに考え、悩み行動している人との意識に背離が見えた。
- ・スタッフの体制が未整備だったこと、サポーターも体系立てて活動しなかったことは反省点。
- ・常に「現場」いい私は、もうすこし力があれば、と感じつつ、全体に「お役所」の立場が見えました。
- ・まったく関心のない人を取り込むまでのPR力がなかった。例えば村上の人形さま巡りには楽しみがあり大成功だと思っています。新潟にも「また来たいな」と思わせる楽しみが必要。

#### ●アーティスト

- ・もう少し時間があれば、市民が参加できるイベント内容と地域状況が把握できて、お互いの成果が活きたのにと、反省しつつ思います。
- ・開催期間が長くてだらだらし、一方で準備期間は短すぎて計画を立てづらく、宣伝もままならなかった。そのせいか、訪れた人から行きづらい・場所がわかりづらい（特に県外）などの声を聞きました。
- ・このフェスティバルへの呼びかけ、仕掛け方は唐突であった。理解し、内容を深める準備に時間がなすぎた。市の職員以外はできるだけボランティアでまかなおうとすることにも疑問がある。
- ・どこまで作家が地域に関わってよいものか戸惑いを感じた。

## ●その他

- ・送客イベントとして、具体的なイメージがわからなかった。JR乗車券+1日パスポートは販売に結びつかず、苦戦した。(JR)
- ・象徴的に感じたことは、新潟市美術館の展示を「科学の目」をもって解説する趣向があれば「水と土」のテーマをもっと深めたのではないか。アート偏重ではなく、自然科学、歴史科学の側面から「水と土」捉える視線が大切。(博物館)
- ・当初、新潟市がどこまでやるのか(作品を作るのはかわるがその先は?) JRの守備範囲がどこまでかわわからなかった。送客イベントとして、中身の具体的なイメージがつかみづらい。(JR)
- ・アートの関係で、急に決定し、地元は困惑し、苦情も聞かれた。急に来たと思ったら何を始めているのかわからない。中央集権、一極集中に情報を集めようとするばかりに、地域とコミュニケーションが取れないままスタートするなど組織的な欠陥があったと思う。
- ・子どもにも参加して欲しいということで、教育委員会を通じて学校に呼びかけたが、これは駄目。区役所から地域へ発信すれば、もっと子どもが参加できたはず。子どもがいけば、大人も付いていくという考え方では。もう一工夫不足だった。
- ・鳥屋野湯、日本海など水辺をうまく使っていない。中途半端で活かしていない。
- ・大地の芸術祭、北川フラム、2番、3番、どこでも同じ。そういう人を総監督にしまえば、みんな同じに見えるのも当然。新潟市の場合、移動距離が多く交通手段の少ない新潟の特性を考えると、不向きなイベントであったかもしれない。

## 今後について

### ●地域

- ・メディアを巻き込んで、事業の結果報告を早く行い、次の展開につなげる工夫も大切だ。
- ・「全体的なうねり」がなかったなので、今後は「人の力」が必要だ。口コミによるこまめなPR、一歩踏み込んだ誘いが必要である。
- ・今後は経済効果までいなくても、地域に変化を与えるようなものが大事。たとえば西区DEアートでは、スタンプラリーのカードを参加者がぶら下げ、普段と違った雰囲気や街に与え、連帯感を呼んでいた。
- ・新潟の人はとても温かい目でみてくれるが、居心地の良さに安住している面もあり、今後は、今まであるものを発掘するのではなく、それらを持ち続け、そこから飛び出すもの「守るべきは守り新しいものをつくる」。そういったものを発信していくことが大切である。
- ・もっとアートを行う作家が地域とコミュニケーションを持つことが必要だ。
- ・新潟は訪問客を案内する場所がないので、数年に一度でいいので芸術祭が開催されてもいいのではないかと。夏だけでも展示できるとよい。
- ・作品鑑賞後の食事や休憩、土産など、特に食に関して、商店と連携する。更に、絶景スポットと日帰温泉紹介を充実させる必要が今後あると思う。
- ・今後もイベントを予定しているが「ショー」として考えている。地域密着でやれば、報告書を書く時点での聞こえはいいが、興行的には全然面白くない。ある程度は興行として考えないと、人を呼んで経済効果を産まなければ、まちづくりや活性化にはつながらない。



- ・子どもたちを自然の中で遊ばせながらも心も体も健全に育成していくという活動の軸をぶらさず、継続的に事業を行っていかなければならない。
- ・今後は地域により添い、住民の主体性をイベントに組み込む事。住民の主体性のみでイベントが成立する。それが継続的に日常的に行われる風景を目指す事。
- ・次回やるなら展示場所を区に一箇所程度集約する方が、人は集まりやすい。

#### ●サポーター

- ・サポーターの体制が不十分だったし、個々の心構えも差があった。十分な体制をつくって次回に臨みたい。
- ・愛知県の佐久島に1号作品があるそうです。新潟市と佐久島が姉妹作品を縁に交流できればいいなと思います。
- ・今回は反省点がたくさんあります。それを生かすためにも次がなければならないと思います。
- ・市がやらなくても、サポーターだけでもやりたいし、できると思う。
- ・「盆踊り」を踊った人は、再現できた喜びでいっぱいだった。今後も何らかの形で継続したい。

#### ●アーティスト

- ・広報や、案内表示が行き届いていなかったように感じられますので、今回は複雑な地域での展示でもありますので、サイン表示は重要です。
- ・できれば、決められた会期中で終えてゆくプロジェクトでは無く、各々の時間の流れで一つの作品が存在出来れば、もっと有意義な地域との関わりが築けたと感じています。
- ・少なくとも地域に根ざし、地域の方の自発的な働きによって成り立つものでなければその効果は期待できないと思います。一過性のイベントにせず、あせらず時間をかけて継続させていくことが大切である。
- ・今後、各地において観光名所になるような宣伝が必要だと思いました。また、アートイベントなどで地域の特色を生かしたイベントを、地域の方が参加して行うことが必要だと思いました。
- ・新潟の魅力（地形、気候、食）を特色とした場所の作品位置やイベント、関連したテーマを取り入れた芸術祭であること、そして地域の方々が芸術祭を理解して一緒に楽しみながら取り組むことが必要。
- ・今回はさまざまな場所を見て、次の構想が浮かびました。機会があれば、新潟で作品を発表したいと思っています。
- ・作品が残せないのが残念ではあります。
- ・地域活動が乱立する新潟を、外から人が訪ねてくるという構図ができてほしい。
- ・参加者だけで盛り上がった感じがあるので、地域の人達を巻き込み、繋がりを蜜にして回数を重ねていくと来訪者ももっと来やすく、地元の人も地域をもっと知ることができるでしょう。

#### ●その他

- ・新潟市はPRできるものはある。これからだと思う。(JR)

- ・10年後、新潟港は開港150年を迎えます。アート作品が港のロケーションと調和し、美しい雰囲気醸し出せるようなみなとまちになればよいと思います。(国交省)
- ・経済効果もあるが、文化活動そのものがまちづくりで、コンセプトも「市民のための芸術祭」から「市民のための市民による芸術祭」とし、次につなげることが必要。(イベント主催者)
- ・僕らはこれからもハコラズモを続けていきたい。続けることで、新潟市をアピールできると思う。(イベント主催者)
- ・今回の芸術祭は宝物を掘り起こすきっかけになった。今後はその宝物を活かした活動につながれたら、素晴らしい。(イベント主催者)

## 5. 自治協議会の意見等

平成22年度の最初の各区の自治協議会で芸術祭のお礼と報告をし、下記のような質問、意見などを頂いた。なお、南区は要望されなかったので、自治協議会に出向いていない。

北区

○ 55万人の来場者が、どこからどういう人がいらしたのでしょうか。市の人、近郊の人、それ以外、どこの県から来たのか。

● 事務局回答 全体の72.3パーセントが市内、新潟市を除く県内が12.2パーセント、新潟県以外が15.4パーセントです。さらに調べたいと考えています。

○ おひるねハウスですが、いろんな方と相談して移設することになったと思うのですが、地元としてはものすごく残念である。本当はそこに位置しなければならなかったのではないか。何のために地元で開催したのか、何でそこに置けなかったのか。

●事務局回答 おひるねハウスにつきましては、最初から北区のあの場所で展示させていただきましたので、引き続きあそこに展示したいと考えていたのですが、その土地を使うには許認可の関係があるということと、あそこは非常に風が強いため、砂が飛んでしまい下がえぐれていき、基礎が出てしまいます。子どもが入ると危ないのではないかと、もう少ししっかりした土台のところでもいい場所がないかということで、候補として海辺の森も考えたのですが、そこでは残念ながら林が茂っていて海が見えないという事情もありまして、色々検討させていただいた結果、今の中央区の方に移設させていただいたという経緯でございます。区役所、地元とも相談させていただいています。

○ 芸術祭を開催するにあたって、2月議会で予算の議決をもらえないで、だんだん長引いて9月議会になり、期間も短くなった。いろんなことがあったときに、もっと詳細に検討する時間が必要でなかったかと思っております。全市8区一斉というのはいかがなものかと思う。パスポートを買っても全部行けるはずがない。せいぜい頑張って20カ所くらいしか行けなかった。美術館と北区くらいしか行けなかったが、こういうものは3カ年くらいかけて、例えば、東区と江南区と北区で一緒になって1年目とか、巡回して3年くらいにわたって開催した方が、この目的にあうのではないかと思うのです。挙句の果てに開催してみれば色々なトラブルがあって、台風で壊れたとか、期間に間に合わなかったとか、大事なメイン会場の美術館でも色々あった。そういうことを考えると、すぐやるんじゃなくて、検討期間があって、各区とも相談しながら、開催方法について一考する必要があったと思います。それと経済波及効果の結果が出ていますが、美術面もいいけれども、やっぱり一番期待されたのは、この経済波及効果です。この概要版の中では見方が違ったというが、去年は国体とか天地人とかあったが、今年は何もなくなっている。そういう競合しないときに開催すべきであったと思います。仏像展の案内ももらっているが、これが影響しているとは言わないが、このことが結果として大きな問題なのだろう。担当課は成功したと言っているが、全体から見たら決して成功と及第点はやれないと思う。

○色々問題のあった催しでありますので、100 人の方がいれば100 人の意見が出てくるだろうと思います。次回をやるのかは未決定だということではありますが、もしやるようであれば、結果が出た後でありますので、色々な反省事項があるかと思えます。我々も言いたいことはたくさんあるのですが、そういうものを十分くみ取って、咀嚼をしたうえで、次やるのかやらないのか決めてもらいたいです。皆さんの努力にかかわらず、そういう点はあげられないと思えます。問題がたくさん残ったと思えます。これはお互い反省することではありますが、今度は時間がないということで、見切り発車するのではなくて、市民の意見を十分くみ取った上で、やるのかやらないのか判断をして欲しいと思えます。時間がない中でぎりぎりいっぱいスタートするというのは、一番よくなかったと思えますのでよろしくお願いします。

#### 東区

○ 実行委員会の名簿の中に東区自治協議会が載っていないのに疑問を感じている。

● 事務局回答 自治協として、実行委員会に加わるということではなく、自治協から実行委員会に入る人を推薦してほしいということです。

#### 中央区（第一回）

○実行委員を務めた一員としまして、終わってみますと費用対効果については市民の意識は定まったと思っています。実際、私も新潟地区コミュニティ協議会としてバスツアー等をやりまして、いろいろ見てきましたけれども、正直申し上げますと、経済的な効果とか、いわゆる観光的な効果というものは非常に難しいなということが実感としてあります。ただし、市民が一体となってやる文化的な事業、学校とか地域とか団体、これは非常に盛り上がったという感覚を持っております。だから、費用だけで判断をされないようにということが私の見たところでございます。また、解散総会で委員の中からこれをぜひ継続してという意見が多々ありましたけれども、私はこれをもし将来やるにしても、開催するという結論ありきのスタートではなくて、市民の意見を十分に聞いて、市民に認知してもらって、PRして、その上で開催するかどうかを決めていただきたいということが、終わってみての感覚です。私も、今回終わってみて、各地のいわゆる地域の伝統文化、歴史があるなということで非常に新鮮な驚きを持っていましたので、催事としてはよかったなということが実感でございます。

○北川フラムさんは、いろいろとマスコミを賑わせておりますが、私は北川フラムさんというお名前を聞いたときに、ネットで検索しましたら東京芸術大学のご出身でいらっしゃいますよね。でも、いろいろと裏に胡散臭いような略歴があると。こんなことを言って失礼でございますが、こういう方をなぜアートディレクターにしたのかなということが私は疑問でございます。案の定終わりましたら、結局今回の騒ぎになったわけでございます。アートディレクターに推薦された経緯をできたら教えていただきたいと思えます。

●事務局回答（事務局）北川フラムさんにつきましては、皆さんも御存じのとおり2000年から始まってあります十日町、津南町でやっております「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を実施された実績があるということで、北川さんをお願いすることになったと考えています。いろいろな芸術祭がございます。神戸ビエンナーレは2年に1回でございますが、横浜ト

リエナーレ、他にも規模が小さいものもあります。地域と一体となって地域を再発見し、地域の人たちと一緒にやっていくという北川方式とでも言うのでしょうか、そういうやり方が北川さんでないとできないということがあったのではないかと考えております。ですから、横浜ですとか、神戸については、全く違うやり方でやっていますし、これはディレクターも違います。

○これは私の考え方の一つなのですが、（大地の芸術祭は）県の主催で3年間だと聞いていたのですが、3年間終わって新潟市の水と土の芸術祭に流れてきたような感じを受けたのですが、感じから言いますと市長と個人的なつながりがあったのではないかとこの噂を聞いたものですから、少し引っ掛かるのです。結果論で言うわけではないのですが、あの人たちはどこまで稼動してくれたのかという感じを受けるのです。経費だけ、持っていくものは持っていくという感覚、あの辺がいかに学者であっても、宣伝のための学者みたいな感じを受けました。

それから、このたびのことで感じたことは、拙速すぎたのではないのでしょうか。今まで新潟市のやり方という何でもそうなのです。区政のやり方もそうです。だから、時間をかけてもう少し市民の声を入れた行事をやってもらいたかったなという感じを受けますし、市議会においても予算を削られたという面もありますし、このたび、私は企画提案イベントに沼垂の行事で参加させてもらい、お世話になったので一言いいますけれども、新潟市内全体で行う場合は100万円、区内で行う場合は50万円という予算で市のほうから言われたのですが、私らがお願いしたときに、たしか削られて35万円になったと思ったのですが、そういう事情がどうなっているのだろうかという、私は見てこなかったものですから、私の知りうる範囲で苦言を申し上げました。

## 中央区（第二回）

### 経済波及効果について

●事務局回答 先回の会議の中で、経済波及効果については12億5,000万円であるというような報告をさせていただきました。12億5,000万円というのはどのようにして出したのでしょうかということだと思うのですが、それにつきましては、一応計算式がございます。延べ来場者数×消費支出＝需要発生額。この需要発生額に直接効果、1次波及効果、2次波及効果を計算して総合効果を算出。総合効果が12億5,000万円ということになっております。直接効果につきましては、実際に直接そのものを買った、消費した、投資した、そういう初期消費でございます。ただし、今回、市が計算しているものは、県内で消費をしているものでございます。屋内施設につきましては、延べ来場者数は12万6,213人というように計算しております。これは実数でございます。これにつきましては、「新潟経済社会リサーチセンター」で1人当たりいくら使ったのですかという標本をとりました。標本数は849人です。夏、秋、8月、9月、10月、11月、延べ12日間、土曜、日曜、平日、晴れの日、雨の日、そのようなことを考慮いたしましてとりました。849人で宿泊、飲食、交通、お土産、その他という形で、1人当たりの消費額をお聞きしたところ、これも先般の報告書にありますけれども、県外については1万7,313円。県内については1,314円という数字が出ました。これに基づきましては、計算書は需要発生額、これは消費支出総額というようにしてもよろしいかと思えます。ここから、今度は波及効果というものを計算いたします。波及効果につきましては、1次波及効果、2次波及効果がございまして、これについては新潟県で作られております産業連関表という

もの、そこに数字がございます。どういうものかと言いますと、例えば1人が1万円を使った場合、その1万円が1次効果といたしまして、原材料というものにどれくらい効果があるのかと。2次効果につきましては、その仕事に携わっている雇用者の人々がそれで買い物をするというようなこととございます。これに基づきますと、需要発生額、消費総額とございますが、2億6,510万9,000円が3億687万7,000円。約1.16倍というようになっております。このようなものが屋外施設、それから主催イベント、企画提案イベントの三つとございます。屋外イベントの延べ来場者数は27万人、これは推計値とございますが、これも定点観測及び聞き取り調査に基づいて計算した数字とございます。これについて、1日観覧箇所数、1人の方が来た場合、1日で何箇所見られたかということをお聞きしたところ2.38箇所ということになっております。それに、そのお一人の方がいくら使うのかということで、3,783円と。3,783円につきましては、日帰りと宿泊の平均値とございます。それを掛けますと4億9,783万円とございます。主催イベントにつきましては、延べ来場者数が1万3,650人。今回、これにつきましては、県内客消費支出のみを掛けております。1,793万6,000円と。これに1.16を掛けまして、2,080万6,000円と。企画提案イベントにつきましては、13万9,560人の方に、これも県内のみの消費支出を掛けまして1億8,338万2,000円と。これに1.16を掛けまして2億1,272万3,000円ということになります。5番目が主催者支出、これは私どもの実行委員会のほうで使ったお金と考えてください。需要発生額につきましては、「新潟経済社会リサーチセンター」のほうで個々の作家に対しての制作費、旅費、広告費といったものを計算いたしましたところ、2億1,527万3,000円になっております。この①から⑤を足したものが12億5,350万9,000円となります。

○今の数字をお聞きしまして、私も実際に実体験した感覚を申し上げますと、この文化とか芸術的なイベントというのは、私も実際に体験したこと、経済的な効果とか、観光的な資源としては弱いといえますか、非常に難しいなということが実感でした。ただ、こういう文化とか、芸術のイベントは費用対効果とか、経済的な効果だけではない住民の文化意識の向上とか、各地の市民の郷土愛とか、そういうものがプラスアルファでありますから、それに各団体、学校、それからまたその地域のボランティアの方々、そういう人たちの参加意識を大事にして、そういうところから見ていくことが必要ではないかと思っています。今のこの数字から見ますと、経済的な効果は厳しいという感覚を持っております。また、先回も申し上げましたけれども、こういうイベントは市民のコンセンサスをしっかり得てからやるようにということは、市民の意見から聞いた感覚です。また、今回の水と土の芸術祭のイベントについても、将来やりたいなという実行委員の方からの発言がありますけれども、先回も申し上げましたけれども、実行するというような結論が先に来るのではなくて、市民の意見を十分に聞いて、コンセンサスを得て、その上でやるのが大事だと思っていますので、経済的な効果を目的として、観光資源を目的としてやるということについては、あまり期待しないほうが良いということが、私の実体験の感覚です。

○先回、質問を申し上げた趣旨がよく伝わっていないと思うのです。先回の報告によりますというと、経済波及効果の目標が27億円なのです。それが、結果が12億5,000万円というのはあまりにも差がありすぎるのではないかと。その差の原因の究明をお願いしたいという趣旨で、議事録を見ていただければそういう発言になっていると思います。従って、これは回答にならない。非常に不満足です。

●事務局回答 先般もそのことについて完全な回答ではなかったかとは思いますが、このような形でお話をさせてもらったと思います。当初、私どものほうで経済波及効果ということで、算出根拠だった数字と今回の調査をした数字の実数が違っていたということが大きな理由だと思います。当初の計画によりますと、県内の観光地の経済波及効果というものが、新潟県で平成16年に出ておりました、その中の数字が県内客が6,807円、県外客は3万89円という数字でございました。それを基に計算したわけでございます。あわせまして、県内客は81.7%、県外客が18.3%というような数字でございました。今回、実際に調査をしたところ、先ほど言いましたように、県内客につきましては、1,314円、それから県外客については1万7,313円という数字が出ました、あわせて県外と県内の内訳でございますが、県内客が84.6%、県外客が15.4%、この数字の差がそのような数字になったと考えております。

○もう一回申し上げます。非常に厳しく、正しい現状をはっきり申し上げましたので、私も今回ずっと関わってきましたけれども、非常に厳しい市民の意見をいただきました。それで、先ほど申しましたような、ただ私自身も費用対効果とか、経済的な効果だけで判断しないでくれというように申し上げてきましたから、ただ将来これをやるについては、非常に厳しく検討していただきたいと思います。

#### 江南区

○水と土の芸術祭は賛否いろいろとありましたが、第14回ふるさとイベント大賞で選考委員特別賞を受賞しました。ボランティアスタッフが力を合わせて活動して活躍し、世界に「新潟市」を発信したということだととてもうれしいことだったとボランティアの一人として喜んでいきます。

#### 秋葉区

意見, 質問等はなし

#### 西区

意見, 質問等はなし

#### 西蒲区

○この「水と土の芸術祭」については、4億円を使って、やって良かった、いや悪かったと評価が分かれるところではありますが、私としては政令指定都市になって3年目、新潟市を全国に発信するという面からは一定の意義があったと思っております。しかし芸術祭を何年かおきにずっと続けるのかということと、これでこの芸術祭はもう一切やめてしまうというのでは、この芸術祭の持つ効果・意義が後で問われるわけです。やはりこの芸術祭を何年ごとに行うというビジョンがなければ、私はこれを取り上げた企画そのものが問われると思います。